

初學日本文典

物集高見著

全

ホ 2
437



物集高見著

全二冊

初學日本文典

明治十一年
五月出版

出雲寺版

日本文典序

明治十一年八月九日

高見

文之有法出於天非人之所能
為也萬國皆有文法我邦奚獨
不然顧我邦在昔無有道文法
者非無法也特無法之名耳其
道文法者創於本居翁繼以中

利
497

497

不學之典 序
島菽原之徒而至物集氏父子
實集而大成之物集氏曰高世
鎮西之歌宗也家精於語學文
法長子高見來居東京弘修乃
父之業遇有疑義必質諸家庭
郵筒往復千里不絕故其所撰

淵涵而廣博精竅而簡明迺若
此編雖為初學而作然其闡幽
顯微條分縷折無復餘蘊較諸
世之或徒剽竊歐米文典拙撰
妄作以紊亂我天然固有之法
者豈可同日而語哉夫日日出

初學字典
而燭火熄此編也一行於世坊
間所有文典文法諸書覆醬甑
者必不少矣

明治十有一年五月

南豐學人元田直識

西塾松井甲書



初學日本文典前編

○標目

上卷

文字論

音標字

母音

子音

鼻音

濁音

半濁音

五十連音

五十連音圖

拗音

反切

伸音

通音

音便

言語論

總括

體言

體言ノ種類

體言ノ數

體言ノ格

用言

作用言

活辭ノ種類

命令法

希求法

疑問法

崇敬法

活辭ノ時
 活辭ノ轉變
 活辭轉變表
 四段活辭
 四段再轉
 下二段活辭
 下二段再轉
 變格活辭
 形狀言
 形狀言ノ轉變

下卷

形狀言轉變表
 形狀言ノ變化
 くまゝノ變化
 單辭ノげ
 形狀變格
 接辭
 接辭ノ種類
 體言ヲ兼ル接辭
 作用言ヲ兼ル接辭

形状言ヲ兼ル接辞

嘆 辞

希求 辞

命令 辞

禁止 辞

指示 辞

現在 辞

過去 辞

將來 辞

否不 辞

疑 辞

反 辞

兩 辞

分量 辞

想像 辞

決定 辞

比准 辞

助 辞

句頭接辞

一種接辞

崇敬辞

亓尔乎波ノ調

亓尔乎波ノ表



初學日本文典卷之上

豊後

物集高見 著
根本真苗 校



文字論

音標字

日本ノ純粹正雅ナル言辭ヲ記スニ用フル正キ音標ノ文字ハ其數五十ニシテ平假字扁旁假字ノ二體アリ而ノ一字必ズ一音アリテ西洋諸國ノ如ク數字ヲ配合シテ一音ニ呼ブ類ニ非ズ乃チ平假字ハあいゝえお。かきくけこ。さ。た。て。せ。ち。つ。と。な。に。ぬ。ね。の。は。ひ。ふ。へ。ほ。ま。み。む。め。も。や。い。ゆ。よ。ら。り。る。れ。ろ。わ。お。字。急。を。扁旁假字ハアイウエ

才。カキクケコ。サシスセソ。タチツテト。ナニヌネノ。ハヒフ
ヘホ。マミムメモ。ヤレユイヨ。ラリルレロ。ワヰ于エヲ。トス
此中同音ノ如クシテ異ナル者三個アリ乃チ平假字ニテ
ハ。ハ。ト。ハ。ウ。ト。ウ。ト。江。扁旁假字ニテハ。イ。ト。ト。ウ。ト。于。エ。
ト。氏。此。以。字。江。と。于。氏。ノ三字ハ其音ノ單複輕重ニ因テ分
ル、者ナリ

此五十ノ音標字ヲ用テ呼ブ所ノ聲音ハ其數五十個ニシ
テ母音アリ子音アリ母音ハ子音ヲ生ズル聲ニシテ子音
ハ母音ニ因テ生ズル聲ナリ

母音

母音ト稱スル者ハ「あいうえお」ノ五個ニシテ其聲喉
ヨリ發シテ清朗單一ナルニ因リ「あゝあゝ」「いゝいゝ」ノ如ク
引テ呼ベド本音ノ外ニ出デズ故ニ又單音ト稱ス此聲ノ
變化ニ因テ生ズル所ノ四十五個ノ聲ヲ子音ト稱ス

子音

子音ト稱スル者ハ其數四十五個ニシテ二個ノ母音ノ相
重ナルト母音ト子音ノ相重ナルトニ因テ成ル者トス是
ヲ以テ其聲音單純ナラズ「かゝあ」「きゝい」ノ如ク引テ呼
ベバ皆韻ニ母音ヲ出ス故ニ又複音ト稱ス
母音ト相重ナル所ノ子音ニ七個ノ原音アリクシテ又カ

ムルト云フ其聲隱微ニシテ未ダ全ク明ナラザル者トス
 今假ニ此隱微ナル聲音ノ記標ニ扁旁假字ノクスツヌフ
 ムルヲ用ヒテ母音トノ結合ヲ説カバ先ヅクト母音ト重
 リテ「かきくけこ」ノ五音成リスト母音ト重リテ「さ
 志志せそ」ノ五音成リツト母音ト重リテ「たちつてと
 」ノ五音成リヌト母音ト重リテ「なにぬねの」ノ五音
 成リフト母音ト重リテ「はひふへほ」ノ五音成リムト
 母音ト重リテ「まみむめも」ノ五音成リルト母音ト重
 リテ「らりるれろ」ノ五音成ルガ如シ而ノ其結合スル
 形ハ

クトあト重リテかヲ生ジクトハト重リテきヲ生ジク
 トウト重リテくヲ生ジクトエト重リテけヲ生ジクトお
 ト重リテこヲ生ジテ「かきくけこ」成ル是ヲ加行ノ
 五音トス此聲ハ牙ヲ用テ呼ブ故ニ牙音ト稱ス
 ストあト重リテさヲ生ジストイト重リテそヲ生ジス
 トうト重リテそヲ生ジストエト重リテせヲ生ジスト
 おト重リテそヲ生ジテ「さ志志せそ」成ル是ヲ佐行
 ハ五音トス此聲ハ齶ヲ用テ呼ブ故ニ齶音ト稱ス
 ツトあト重リテたヲ生ジツトベト重リテちヲ生ジツ
 トうト重リテつヲ生ジツトエト重リテてヲ生ジツト

お。ト重リテと。ヲ生ジテ「たろつてと」成ル是ヲ多行
 ノ五音トス此聲ハ舌ヲ用テ呼ブ故ニ舌音ト稱ス
 ヌトあ。ト重リテな。ヲ生ジヌト。ト重リテに。ヲ生ジヌ
 ト。ト重リテぬ。ヲ生ジヌト。ト重リテね。ヲ生ジヌト
 お。ト重リテの。ヲ生ジテ「なにぬねの」成ル是ヲ奈行
 ノ五音トス此聲ハ舌ヲ用テ呼ブ故ニ舌音ト稱ス
 フトあ。ト重リテは。ヲ生ジフト。ト重リテひ。ヲ生ジフ
 ト。ト重リテふ。ヲ生ジフト。ト重リテへ。ヲ生ジフト
 お。ト重リテほ。ヲ生ジテ「はひふへほ」成ル是ヲ波行
 ノ五音トス此聲ハ唇ヲ用テ呼ブ故ニ唇音ト稱ス

ムトあ。ト重リテま。ヲ生ジムト。ト重リテみ。ヲ生ジム
 ト。ト重リテむ。ヲ生ジムト。ト重リテめ。ヲ生ジムト
 お。ト重リテも。ヲ生ジテ「まみむめも」成ル是ヲ麻行
 ノ五音トス此聲ハ唇ヲ用テ呼ブ故ニ唇音ト稱ス
 ルトあ。ト重リテら。ヲ生ジルト。ト重リテり。ヲ生ジル
 ト。ト重リテる。ヲ生ジルト。ト重リテれ。ヲ生ジルト。お。
 ト重リテろ。ヲ生ジテ「らりるれろ」成ル是ヲ良行ノ
 五音トス此聲ハ舌ヲ用テ呼ブ故ニ舌音ト稱ス
 母音ノ相重リテ生ズル所ノ子音ハ「やゆ江よ」「わを
 宇を」ノ十音トス「やゆ江よ」ハ母音ノイノ五個

ノ母音ト重ルニ成リ「わゐうゑを」ハ母音ノウノ五個ノ母音ト重ナルニ成ル其重ナル形ハ

イトあト重リテやヲ生ジイトイト重リテいヲ生ジイトイト重リテゆヲ生ジイトイト重リテえト重リテ江ヲ生ジイトイト重リテよヲ生ジテ「やいゆ江よ」成ル是ヲ也行ノ五音トス此聲ハ母音ト同ク喉ヨリ發ス故ニ喉音トス

ウトおト重リテおヲ生ジウトイト重リテおヲ生ジウトウト重リテウヲ生ジウトイト重リテゑト重リテゑヲ生ジウトおト重リテをヲ生ジテ「わゐうゑを」成ル是ヲ和行

ノ五音トス此聲ハ母音ト同ク喉ヨリ發ス故ニ喉音ト稱ス

或説ニ喉音也母音及行ノ外ノ七行ハ二音重ナラズシテ皆單行ナル者ナリ故ニ七行ノ子音各其七行ノ子音ト重ナル片ハ二音ニ分ル、明ナル拗音ニシテ一五音ニ約マルヲナシト云ヘレド七行ハ固ヨリ子音ト重ナル者ナリ者ニ非ズシテ子音ノ母音ト重ナル者ナリ若シ然ラズトセバ七行三十五個ノ音ヲ長聲ニ呼ブ其韻ニ盡ク母音ヲ生ズル者ハ抑何等ノ原因アリテ然ルカ是レ七行モ亦單行ナラザル明證ナル可

鼻音

五十音ノ外ニ撥ル聲アリ是ヲ鼻音ト云フ此音標ニハ平假字ニハんヲ用ヒ片假字ニハンヲ用フ抑五十音ハ口ノ正音ナルニ因リ口ヲ閉レバ一音モ發スルヲ能ザルヲ獨リ鼻音ハ全ク口ノ正音ニ非ザルヲ以テ口ヲ閉テ呼ブモ猶其聲ヲ發シ得ベシ此聲ハ本ト麻行第三音ノむノ變音ナルヲ以テ今んト云フ可キヲ上古ハ必ズむト呼ブ汝むび或ハにいの等ニモ呼ベル者アリ蘭ヲ近衛ヲ面このゑい或説ニハんハ平假字ノにノ變體ニテ然レハ已ニ一個ノ

音ト成タレバ復タむヲ推テんと同一ニハ説ク可ラザル者アリ譬ヘバむハ長聲ニ呼ビ短聲ニ呼ブモ自在ナレハんニ至テハ長聲ニハ呼ブ可ク短聲ニハ呼ブ可ラズむハ句頭ニ置ク可クんハ句頭ニ置ク可ラズんハ音便ニ呼ブ可クむハ音便ニ呼ブ可ラザルガ如シ御殿ヲ呼ぶんハ夜とど我あめらるシノあシへん等ヲ地ガよむつのおとどちレレ在メハルハへハ何ナルカモ辨フレ可ラズ漢籍讀ミトん音便ニ至テハ辞更義シキ是者アリ甚故ニんハむノ變音ニテむノ次ニ位スル一個ノ音トス

子音ノ中加行佐行多行波行ノ四行ニ濁音アリ此聲ヲ記
ス可キ文字無キヲ以テ各其行ノ清音ノ記標字ニニ点ヲ
加ヘテ其識トス

加	行	か	ぎ	く	げ	ご
佐	行	ざ	ぎ	ぐ	げ	ご
多	行	た	ぢ	づ	で	ど
波	行	ば	び	ぶ	べ	ぼ

此聲ハ本ト四行ノ變音ニシテ日本ノ正音ニ非ズ是ヲ以
テ古來一音ノ言辞ニ於テハ濁リテ呼ブ者アルナシ音ニ
三音連合便ニシルテ今論ズル者ト異ナル者故ニ各其行ノ

清音中ニ攝シテ別ニ其行ヲ立テズ

半濁音

子音ノ中波行ニ清濁ノ間ノ音アリ是ヲ半濁音ト名ク此
聲ヲ記ス可キ文字モ亦無キヲ以テ其行ノ清音ノ記標字
ニ圈点ヲ加ヘテ其識トス

波	行	は。	ひ。	ふ。	へ。	ほ。
---	---	----	----	----	----	----

半濁音ハ濁音ヲ呼ブ如クニ唇ヲ彈テ清音ニ呼ブ即チハ
ハ烟波ノ波ノ如クハハ尊鼻ノ鼻ノ如シ
此半濁音モ亦是レ日本ノ正音ニ非ザルヲ以テ古書ハ更
ナリ近世ニ於テモ多クハ口語上ニ在ルヲ以テ別ニ其行

ヲ立ズシテ其行ノ清音中ニ攝ス

五十連音

母音子音ヲ連タル圖ヲ五十連音圖ト云フ此圖ハ堅ノ五
 字ヲ音トシ横ノ十字ヲ韻トス堅ノ五字ハ阿行^あイ^いう^う加^か
 行^けこ^こき^きく^く佐行^せさ^さそ^そ多行^たた^たち^ちッ^ッ奈行^ねね^ねの^のぬ^ぬ波行^はは^はひ^ひふ^ふ
 麻行^まま^まみ^みむ^む也行^やや^やよ^よゆ^ゆ良行^らら^らり^り和行^わわ^わを^を字^字ニシテ横
 ノ十字ハ第一韻ハ「あかさたなはまやらわ」第二韻ハ
 「いきまぢにひみゆりゐ」第三韻ハ「うくまつぬむ
 ゆる字」第四韻ハ「えけせてぬへめ江れる」第五韻ハ
 「おこそとのほもよろこ」トス而ノ此五十ノ音韻ハ縦

横ニ通ジ萬變ニ應ズルモ各其格ニ從テ混亂錯雜スル
 ナシ往^往クノゆ^ゆか^かゆ^ゆき^きゆ^ゆく^くゆ^ゆけ^けト變動シ還^還ヘルノか^かへ^へら
 か^かへ^へり^りか^かへ^へる^るか^かへ^へれ^れト變動スル類ノ如キモ各其同音中
 ノ變化ニ止テ他音ニ及ブ^及無^無シ^シ往^往ク^ク還^還ヘル^ルヲ^ヲか^かま^まゆ^ゆか^かせ^せら
 へ^へら^らせ^せら^らる^る者^者ト活用スルハ^ハ「あ^あれ^れ」ヲ^ヲ「わ^われ^れ」ヲ^ヲ「う^うつ^つり^り」
 今論ズル者ト異ナリルハ^ハ「み^みだ^だれ^れ」ヲ^ヲ「み^みだ^だえ^え」ヲ^ヲ「ま^まの^のぼ^ぼる^る」ヲ^ヲ「ま^ま
 づ^づつ^つり^り」ヲ^ヲ「み^みだ^だれ^れ」ヲ^ヲ「み^みだ^だえ^え」ヲ^ヲ「ま^まの^のぼ^ぼる^る」ヲ^ヲ「ま^ま
 のば^のゆ^ゆ」ト呼ブモ亦同韻中ノ轉ジニ因ル

五十連音圖

阿行^あイ^いう^う
 加行^かき^きく^く

あ	い	う
か	き	く
あ	い	う
か	き	く
え	い	は
け	き	は
お	い	よ
こ	き	よ

佐 行音齋
多 行音舌
奈 行音舌
波 行音唇
麻 行音唇
也 行音喉
良 行音舌
和 行音喉

拗音

五十連音ハ正音ニシテ是ヲ直音トス其下ノ右方ニ第二

わ	ら	や	ま	は	な	た	さ
わあ	らあ	やあ	まあ	はあ	なあ	たあ	さあ
わ	り	い	み	ひ	に	ち	ま
わあ	りあ	いあ	みあ	ひあ	にあ	ちあ	まあ
う	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	ま
うあ	るあ	ゆあ	むあ	ふあ	ぬあ	つあ	まあ
ゑ	れ	江	め	へ	ね	て	せ
ゑあ	れあ	江あ	めあ	へあ	ねあ	てあ	せあ
と	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ
とあ	ろあ	よあ	もあ	ほあ	のあ	とあ	そあ

韻ノい。き。ま。ち。に。ひ。み。い。り。あ。う。並。べ。右。ノ。下。ニ。や。ゆ。江。よ。ヲ。置。キ。左。ノ。下。ニ。わ。ゐ。う。を。ヲ。置。ク。是。ヲ。拗。音。ト。ス。其。右。ハ。開。ノ。拗。音。ト。ス。輕。音。ニ。シ。テ。左。ハ。合。ノ。拗。音。ト。ス。ナリ。拗。音。ハ。正。音。ノ。少。ク。拗。音。ミ。タ。ル。者。ヲ。云。フ。抑。上。古。ハ。拗。音。ニ。呼。ブ。可。キ。者。ナ。カ。リ。シ。ヲ。我。國。ニ。於。テ。ハ。音。ノ。稱。ト。ス。可。キ。者。ハ。實。ハ。也。行。ノ。直。音。是。ナリ。也。行。ハ。五。位。ノ。重。音。ナ。レ。共。ニ。是。レ。微。音。ニ。シ。テ。各。一。行。ヲ。成。セ。ル。者。ハ。本。ト。喉。音。ハ。其。聲。柔。轉。幽。微。ニ。シ。テ。自。他。音。二。類。セ。ル。所。ア。ト。ラ。其。聲。同。シ。キ。如。シ。ト。也。行。ハ。復。同。ジ。カ。シ。テ。母。音。ハ。單。音。ナ。レ。バ。音。ニ。輕。重。ノ。差。異。アリ。テ。拗。音。全。ク。同。ジ。カ。ラ。ザ。ル。モ。亦。是。ハ。其。原。音。ト。未。ダ。明。ナ。ラ。ザ。ル。ト。微。然。リ。バ。他。ノ。七。行。ノ。七。亦。是。ハ。其。原。音。ト。未。ダ。明。ナ。ラ。ザ。ル。ト。微。

刀皇正統記

ナル聲ニテ母音ヲ除ケバ獨立スルヲ得可ラザル者ナレ
バ純粹單一ニシテ衆音ヲ總括ス可キ母音ノ相重ナレ
ク也行和行ノニ行トハ同ジ 中世已來支那ノ字音ヲ呼ブニ
至テ此聲ヲ用ヒ又此聲ヲ記スニハ其連ネタル音標字ヲ
憑據トシテ字音ノ假字ヲ正ス水ヲモみ火ヲくわト記シ
テモいゝはトハ書ク可ラ
ザル如キ字音ノ假字然レモ尚ホ約ノテ直音ト為ス可キ
者ハ是ヲ直音ニ呼ブアリ酒須ハ拗音ノ志ゆナルヲ直
音ノ志ニ呼ビ初所ハ拗音ノ志よナルヲ直音ノ志ニ呼ブ
而ノ反テ直音ヲ曲テ拗音ニ呼ビ做スハ古今其例アル
ナシ

反切

二音ヲ約メテ一音ニ呼ブヲ反切ト云フ反切ハ連聲ノ便
ニ因テ二音ノ自然ニ一音ニ歸スル者ナリ然レモ音韻相
通ノ正則ニ升フナシ
反切スル所ノ二音ハ上ヲ父位トシ下ヲ母位トス父母同
音中ニ在ル者ハ母位ニ歸シ父母同韻中ニ在ル者ハ父位
ニ歸ス是ヲ豎ハ末テ留リ横ハ本ニ歸スト云フ

父位母位同音中ニ在ル者

か き
け 父位
け 母位
こ

けくヲ約メテくト呼ブ者ハ
惜ヲを去くト云フ類ナリ

父位母位同韻中ニ在ル者

あ	い	う	え	お <small>父位</small>	おほ <small>父位</small>	おほ <small>父位</small>	約メテお <small>父位</small>	呼 <small>母位</small>	呼 <small>母位</small>	呼 <small>母位</small>	呼 <small>母位</small>
は	ひ	ふ	へ	ほ <small>母位</small>	祖 <small>母位</small>	祖 <small>母位</small>	父 <small>母位</small>	父 <small>母位</small>	父 <small>母位</small>	父 <small>母位</small>	父 <small>母位</small>

父位同音中ノ上或ハ下ニ在テ母位他音ニ在レバ母位ノ韻ト同ジ韻ニ當ル父位ノ音ヲ歸音トス是ヲ父位ノ上下母位ノ横ト云フ

父位同音中ノ上ニ在ル者

あ	い	う	え	お	か <small>父位</small>	き <small>母位</small>	く	け	こ
か <small>父位</small>	き <small>母位</small>	く	け	こ	か <small>父位</small>	き <small>母位</small>	く	け	こ

か父位ハ約メテ母位キト呼母位ズ者ハ
 吾妹母位ヲ母位わぎ母位もト云母位フ類ナリ

父位同音中ノ下ニ在ル者

然母位ヲ母位さ母位ト云母位フ類ナリ

伸音

一音ヲ二音ニ呼ビ做ス者ヲ伸音ト云フ伸音モ亦反切ト同ジク連聲ノ便ニ因テ一音ヲ自然ニ二音ニ呼ブ者ナリ故ニ是ヲ約ムルキハ即チ皆本音ニ歸ス而メ此音ハ大率加行波行奈行麻行良行ノ五行ニ在ル者トス

加行ニ在ル者

加行ニ在ル者ハ母位き母位ヲ母位か母位ハ母位は母位敷母位ハ母位お母位カ母位ハ母位ぎ母位ヲ母位ぐ母位り母位過母位ぎ母位ヲ母位く母位ヲ母位か母位く母位開母位ク母位ヲ母位又母位け母位く母位惜母位け母位く母位ヲ母位ど母位ノ類ノ如シ

奈行ニ在ル者ハぬ。ヲなくぬ
なりぬヲきえぬヲみちぬヲおもぬ

類ノ如シ

波行ニ在ル者ハふ。ヲはくふ
はいふヲおもふ

ノ類ノ如シ

麻行ニ在ル者ハむ。ヲまくむ
まいむヲおもむ

類ノ如シ

良行ニ在ル者ハる。ヲらくる
らいるヲおもる

類ノ如シ

通音

音韻ノ變化ハ究極ナシト雖モ五十連音ノ正音ニ於テハ

堅ノ音ノ横ニ曲リ横ノ韻ノ堅ニ拗レテ溷雜紆曲ノ聲ヲ

生ズルヲナク堅ノ音ハ堅ノ音ト通ジ横ノ韻ハ横ノ韻ト

通ジテ其例格ヲ亂ルヲ無キ者ハ盖我國ノ音聲ノ妙用ナ

リ今古書ニ徴シテ同音相通ジ同韻相通ゼシ最奇ナル一

例ヲ示ス故ニサテニ奇ナル者ヲ揭出スル者ハ其奇ナル者モ

ナケレバ

同音相通ノ例

阿行	お <small>も</small>	あ <small>も</small>	お <small>も</small>	あ <small>も</small>
加行	わ <small>が</small>	か <small>が</small>	わ <small>が</small>	か <small>が</small>
佐行	よ <small>そ</small>	さ <small>れ</small>	よ <small>そ</small>	さ <small>れ</small>
通	お <small>も</small>	あ <small>も</small>	お <small>も</small>	あ <small>も</small>
通	わ <small>が</small>	か <small>が</small>	わ <small>が</small>	か <small>が</small>
通	よ <small>そ</small>	さ <small>れ</small>	よ <small>そ</small>	さ <small>れ</small>

第二韻	第一韻	同韻相通ノ例					和	良	也	麻	波	奈	多				
あめつち。	おなま	あめつち。	おやま	をさぎ	をさぎ	うさぎ	去りへ	あなやむ	ゆめ	わがいへ	うなばら	てる					
あめつち。	おやま	あめつち。	おやま	をさぎ	をさぎ	をさぎ	をさぎ	あなやむ	ゆみ	わがいへ	うのはら	とる					
通ちズト	通まズト	通字ズト	通りズト	通やズト	通めズト	通へズト	通まズト	通てズト	通ちズト	通まズト	通字ズト	通りズト	通やズト	通めズト	通へズト	通まズト	通てズト
と	と	と	と	と	と	と	と	と	と	と	と	と					

第三韻 所忌 わまらる。 わまらゆ。 通るズト ヲト

第四韻 亂 みだれ。 みだえ。 通れズト 之ト

第五韻 幾許 こきばく。 そきばく。 通こズト 之ト

此外ニ濁音ト清音ト通ズル者アルモ亦音韻ノ相通ニ紆

曲アルヲナシ乃チ波行ノ濁音ハ麻行ニ通ジテ「まばら

ク」ヲ「ままらく」蓄薇「うばら」ヲ「うまら」ト呼ビ又支

那ノ字音ヲ呼ブニモ「だんま」男子ヲ「なんま」又内外ノ

内ヲ一ハ「だいり」内裡トだいニ呼ビ一ハ「ないま」内侍トな

いニ呼ベバ多行ノ濁音ハ奈行ニ通ジテ共ニ其格ヲ誤ル

ヲナシ

音便

音便ニ五種アリ。イ。ト呼ビ。ウ。ト呼ビ。ン。ト呼ビ。又急促ル聲
 ニ呼ビ。波行ノ半濁音ニ呼ブ。本此聲ハ支那ノ字音ヲ呼ビ
 馴シヨリ移レル者ニテ日本ノ正音ニ非ズ。是ヲ以テ上古
 ニ在テハ五十音ノ正音ノ外ニ音便ノ如キ者ナカリシヲ
 中古以降漢語ヨリ慣用シ來テ雅言ト稱スル者ノ中ニモ
 亦多ク此聲ヲ呼ブ。故ニ五十音相通ノ正格ニハ異ナル所
 アリト雖モ然レモ亦自ラ慣例ノ如キ者アリテ音韻ヲ紆
 曲スルナシ。今此五種ヲ各條ニ分テ其例ヲ示ス。

○イ。ト云フ音便

まヲ長ク引テ韻ヲいニ呼ブ者

詩歌ヲまい^カか 四時ヲまい^シい^シぶ

他音ヲいニ變ジテ呼ブ者

ぎヲいニ呼ブ 后ヲきささい^キハひ

まヲいニ呼ブ 朝ヲあいた 饗ヲもてない^{モテない}

○う。ト云フ音便

他音ニうヲ添テ呼ブ者

夫婦ヲふい^フふ 八日ヲやう^ハか

他音ヲうニ變ジテ呼ブ者

くヲうニ呼ブ 冊子ヲさう^サま 藁馬ヲわらう^{ワラウ}づ

は。ヲ。う。ニ。呼。ブ	は。ヲ。う。ニ。呼。ブ	は。ヲ。う。ニ。呼。ブ	は。ヲ。う。ニ。呼。ブ	は。ヲ。う。ニ。呼。ブ	は。ヲ。う。ニ。呼。ブ	は。ヲ。う。ニ。呼。ブ	は。ヲ。う。ニ。呼。ブ	は。ヲ。う。ニ。呼。ブ
第ヲはうき	真入ヲまうと	法師ヲほうま	卿ヲまうちぎみ	直衣ヲなうま	給リヲたうばり	上野ヲかうづけ	日向ヲひうが	取出ヲとうで
吹革ヲふいがう	首ヲおうと	仕奉ヲつかうまつる	直會ヲなうらひ			小路ヲこうぢ	候ヲさうらふ	

うノ音便ハニ語ノ間ニ介リテ一語ノ如ク聞ユル

者アリ弟ヲ「おと」と	妹ヲ「いも」と	ノ類
ナリ又作用言ノ活辭ノ「ひ」ヲモウニ呼ブ「賜ヒケ		
リ「たまうけり」思而「おもうて」ノ類		
○んト云フ音便		
他音ニんヲ添テ呼ブ者	假殿ヲさんまき不者ヲむんば	
真字ヲまんま		
他音ヲんニ變ジテ呼ブ者		
にヲんニ呼ブ	丹波ヲたんは	如何ヲいかん
ぬヲんニ呼ブ	結垣ヲきんかい	砧ヲきんた
はヲんニ呼ブ	童部ヲわらんべ	

十五

ひ。ヲ。ん。ニ。呼。ブ。 築。土。ヲ。つ。い。ん。ち。 慮。ヲ。おも。ん。は。か。る。

ほ。ヲ。ん。ニ。呼。ブ。 殆。ヲ。ほ。と。ん。ど。

み。ヲ。ん。ニ。呼。ブ。 笄。ヲ。か。ん。ざ。志。 筆。ヲ。ふ。ん。で。

む。ヲ。ん。ニ。呼。ブ。 汝。ヲ。な。ん。ぢ。 譽。田。ヲ。ほ。ん。だ。

も。ヲ。ん。ニ。呼。ブ。 懇。ヲ。ね。ん。ご。ろ。 件。ヲ。く。だ。ん。

り。ヲ。ん。ニ。呼。ブ。 假。字。ヲ。か。ん。な。 夜。御。殿。ヲ。よ。ん。の。お。と。ど。

る。ヲ。ん。ニ。呼。ブ。 有。ベ。シ。ヲ。あ。ん。べ。志。

ん。ヲ。省。キ。テ。呼。ザ。ル。者。

文字。ヲ。も。志。 本。意。ヲ。ほ。い。 案。内。ヲ。あ。な。い。

念。佛。ヲ。ね。ぶ。つ。 精。進。ヲ。さ。り。志。 冠。者。ヲ。く。わ。ざ。

他。音。ヲ。う。或。ハ。ん。ニ。呼。ブ。音。便。

姫。ヲ。お。う。な。 お。ん。な。

女。ヲ。を。う。な。 を。ん。な。

巫。ヲ。か。う。な。ぎ。 か。ん。な。ぎ。

商人。ヲ。あ。き。う。と。 あ。き。ん。と。

頭。殿。ヲ。か。う。の。と。の。 か。ん。の。と。の。

仕。奉。ヲ。つ。か。う。ま。つ。る。 つ。か。ん。ま。つ。る。

○急。促。ル。聲。ニ。呼。ブ。音。便。

全。ヲ。ま。う。つ。た。く。 訟。ヲ。う。け。た。へ。 最。ヲ。も。う。つ。と。も。

何^{アハレ}怜^レヲ^ハあ^ハッ^レば^レ 服^ハ部^リヲ^ハッ^レと^リ

音便ノ^ウヲ^ハ急^ツ促^メテ^ハ呼^ブ 夫^ヲを^ッと

追^オ而^テヲ^ハあ^ハッ^レて 真^マ人^トヲ^ハエ^ッと

從^シ而^テヲ^ハま^タが^ッて 新^ニ田^タヲ^ハに^ッた

貴^キヲ^ハた^ッと^ま 立^タ而^テヲ^ハた^ッて

以^モ而^テヲ^ハも^ッて 則^ノヲ^ハの^ッと^る

奴^ヌヲ^ハや^ッこ

欲^ホヲ^ハほ^ッを

○波行ノ半濁音ニ呼ブ音便

り^リヲ^ハ急^ツ促^メテ^ハ呼^ブ

欲^ホヲ^ハほ^ッを

則^ノヲ^ハの^ッと^る

つ^ツヲ^ハ急^ツ促^メテ^ハ呼^ブ

奴^ヌヲ^ハや^ッこ

則^ノヲ^ハの^ッと^る

ち^チヲ^ハ急^ツ促^メテ^ハ呼^ブ

以^モ而^テヲ^ハも^ッて

立^タ而^テヲ^ハた^ッて

ふ^フヲ^ハ急^ツ促^メテ^ハ呼^ブ

貴^キヲ^ハた^ッと^ま

新^ニ田^タヲ^ハに^ッた

字音ヲ呼ブ者

以^モ而^テヲ^ハも^ッて

立^タ而^テヲ^ハた^ッて

此半濁音ニ呼ブ音便ハ支那ノ字音ニ多クシテ日

本ノ言辞ニ於テハ急^ツ促^メル音ノ下ト撥^ハル音ノ下ト

ノミニ局レリ

言語論

総括

文章ヲ綴属スル言辞ハ分殊ノ性質アル者ニシテ各異ノ
名ヲ冒セル者ナリ故ニ西洋諸國ニ於テハ或ハ八品種ニ
分チ或ハ十品種ニ分ツ然レモ其國土ノ風ニ因リ其言語

ノ體ニ因リ亦自ラ少差ナキ一能ハズ日本ノ言語ノ如キ
モ上古ノ正シキ用法ニ基キ之ヲ論ズルハ乃チ左ノ如
シ
凡百ノ事物ニ於テ其形體ノ有無ヲ撰バズ之ヲ呼ブ言語
ニ轉變ノ活用無キ者ハ総稱シテ體言ト名ク體言中鳥獸
草木ノ類其物體アル者ハ之ニ實體言ノ名ヲ命ジ功績節
操ノ類其作業ノ一個ノ形ニ觀ルベキ者ハ之ニ虛體言ノ
名ヲ命ジ遊戯嬉樂ノ類作用形狀ノ轉變ヨリ生ズル者ハ
之ニ假體言ノ名ヲ命ジ我汝彼ノ類物名ニ代換スル短辭
ハ之ニ代名言ノ名ヲ命ズ

體言ヲ以テ名ケタル事物即チ鳥獸草木等ノ動作形容ヲ
呼ブ言辭ニ活用アル者ハ総稱シテ用言ト名ク用言中事
物ノ動作ヲ呼ブ者ニハ之ニ作用言ノ名ヲ命ジ事物ノ形
容ヲ呼ブ者ニハ之ヲ形狀言ノ名ヲ命ズ
體言或ハ用言ニ接續シテ其意義ヲ達行セシムル媒介ニ
用フル短辭ヲ接辭ト名ク接辭中ニモ亦嘆辭希求辭命令
辭禁止辭指示辭現在辭過去辭將來辭否不辭疑辭反辭兩
辭分量辭想像辭決定辭比准辭助辭句頭接辭一種接辭崇
敬辭ノ名ヲ命ズ可キ者アリ
體言ヲ以テ名ケタル人獸事物ノ百般ノ動作ヲ呼ブニハ

作用言ヲ用ヒ其性質形容ヲ呼ブニハ形状言ヲ用フ又感
 慨ヲ呼ブニハ嘆辭ヲ用ヒ命令ト願望トヲ示スニハ命令
 希求ノ二辭ヲ用ヒ時刻ヲ見スニハ過去辭ト將來辭トヲ
 用ヒ疑訝ヲ呼ビ分量ヲ示スニハ疑辭ト分量辭トヲ用ヒ
 想像ヲ談リ崇敬ヲ示スニハ想像崇敬ノ二辭ヲ用フ
 此論說ヲ以テスレバ日本ノ文章ニ用フル言辭ハ之ヲ次
 條ノ三品種ニ總括シ得ベシ

- 第一 體言
- 第二 用言
- 第三 接辭

右ニ舉々體言用言接辭ハ次序ヲ追テ各別ニ之ヲ論辨
 ス可シ

體言

體言ハ形體ノ有無ヲ撰バズ其呼ブ言辭ニ轉變ノ活用無
 キ者ハ總ベテ此中ノ辭トス而シテ其形體ノ有無及ビ成立
 ノ原因ニ基テ實體「ひと」虚體「こころ」假體「おぼ
 り」代名「われ」ノ四種ニ分ツ
 體言ハ活用無キ辭類ヲ總稱マルヲ以テ一句ト成レル辭
 及ビ熟辭漢語ノ如キモ此辭中ニ収ムルヲ得ベシ即チ
 一句ト成レル辭ハ「男子のこ」「豚のこ」「峯の山」「お渡津つ

「こめかみ」海「あきつかみ」顯神「如ク熟辞ハ」御簾「み
衣」小田「とぐま」小梯「如ク漢語ハ」東宮「とうぐう」内侍「な
に」女「まゆ」病者「ばうざ」如シ

實體言

實體言ハ「ひと」鳥「くさ」草「いま」石等ノ類真個ノ
物體アル者ハ皆此中ノ辞トス

虚體言

虚體言ハ真個ノ物體ナシト雖モ想像中ニ摸生シ形體
アルガ如キ觀ヲ為ス者ハ皆此中ノ辞トス即チ「たま
ゆめ」夢「ころ」虚「うつろ」虚ノ如シ而メ形容ヲ示ス者

時及ビ數ヲ呼ブ者或ハ業作ノ一個ノ事ニ成タル者モ
亦此辞中ニ収ム即チ形容ヲ示ス者ハ「あか」赤「あを」青「
まづか」静「ゆたか」豊ノ如ク時ヲ呼ブ者ハ「はる」春「あき」秋
「あさ」朝「ゆふ」夕ノ如ク數ヲ呼ブ者ハ「ひと」一「ふた」二「
み」三「よ」四「いつ」五「むゆ」六「ちぢ」千「よろづ」萬ノ如ク業作ノ
一個ノ事ニ成タル者ハ「おや」禮「たび」旅ノ如シ又人ノ
笑フ聲ノ「むむ」禮「猫ノ鳴ク聲ノ「ねうねう」雛ノ鳴
ク聲ノ「ひよひよ」雛「叢虫ノ鳴ク聲ノ「ちち」雛ノ吹
ク音ノ「そよそよ」木葉ノ落ル音ノ「けらけら」物
ノ相觸テ鳴ル音ノ「からから」等ハ本ト其物ノ聲ト

音トニシテ上ニ擧ル所ノ者トハ全ク其類ヲ同クセズ
ト雖モ常ニ兩辞ノトニ係リテ説話ニ用フルヲ以テ亦
此辞中ニ収ム

假體言

假體言ハ用言ノ轉變スル格ニ因テ假ニ實體言ト其用
ヲ同クスル者ヲ云フ即チ「ひかり」「こほり」「を志へ
「なりは志」「とほさ」「ちかさ」「さび志さ」「うれ志さ」
ノ如シ然レモ實體言ヲ兼ル所ノ各種ノ接辞ニ於テ或
ハ之ヲ兼ザル者アリ 下條ニ蓋假體ハ本ト用言ヨリ生
ジテ體言ノ用ヲ為スモ其性質全ク實體ト同ジキニ非

アレバ亦自ラ少差ナキヲ免レザル者ナリ

漢語ノ裝束學問修行孝養等モ作用第一變格ノ爲 せ れ
此ニ係リテ活用スル者ハ亦皆此假體中ノ辞トス

代名言

代名言ハ行文中物名ノ毎回反復シテ混亂スベキヲ防
グ爲ニ事物ノ名ニ代換ス可キ簡約ニシテ照應ニ便ナ
ラシムルニ用フル短辞ヲ云フ而ノ短辞ノ中人名ニ代
テ呼ブト他ノ事物ノ名ニ代テ其事物ヲ指稱スルニ用
フルトノ二類アリ又名ニ代テ呼ブ者ハ説話ヲ爲ス人
ト説話ニ對スル人ト説話ニ罹ル人トノ三人ニテ説話

ヲ為ス人ノ自ラ其名ニ代テ呼ブヲ一人稱トシ說話ニ
對スル人名ニ代テ呼ブヲ二人稱トシ說話ニ罹ル人名
ニ代テ呼ブヲ三人稱トス

一人稱

我 あ

我 わ

我 われ

我 われ

二人稱

汝 な

汝 なれ

汝 なむぢ

汝 いまゑ

三人稱

彼 あ

彼 か

彼 あれ

彼 かれ

他ノ事物ノ名ニ代テ其事物ヲ指稱スルニ用フル者ハ
順序ニ因テ是ヲ三等ニ分ツ直ニ其事物ヲ指スヲ第一
等トシ次ノ事物ヲ指スヲ第二等トシ又次ノ事物ヲ指
スヲ第三等トス

第一等

此 こ

此 これ

第二等

其 そ

其 それ

第三等

彼 あ

彼 あれ

彼 か

彼 かれ

是順序ニ因テ論ズル片ハ又遠近親疎ノ反對ヲモ分チ
得ベシ即チ「川の此なた其なた」山の此も其か彼の此も其か彼の此も
ノ如キ此なた此の此もハ近クシテ親シク其なた其か彼の其も
ハ遠クシテ疎キガ如シ

合體言

二個ノ體言ヲ合併シテ一辞ニ呼ブヲ合體言ト云フ此
言ハ多クハ體言ノ第二格ヲ見ス可キ接辞ヲ省テ呼ブ

連聲ノ便ニ因リテ第二語ノ上ヲ濁音ニ變ズ即チ^現を^箱りのはこヲ「^箱ま^紅ぢりば^葉こ」もみぢのはヲ「もみぢは^谷」^山やまのかはヲ「やまがは」たにの^川かはヲ「たにが^谷」^山ノ如シ而メ實體ト虚體ト合スル者アリ虚體ト假體ト合スル者アリ實體ト虚體ト合スルハ「あま^雨よ^夜」^月つきよ^夜「あき^秋ぎり^霧」^旅たびびと^虚虚體ト假體ト合スルハ「あさ^朝がり^霧」^和ゆふ^和なき^和「ひる^午ね^睡」^夜よ^夜だち^發ノ如シ又二辞ヲ合併スル上ノ辞尾ヲ變ズル者アリふねの^舟ひとヲ「ふなびと」よ^米ねの^虫むまヲ「よなむま」ノ如ク又略スル者アリふみのはこヲ「ふ^文ば^箱こ」^文ふみのつ

くゑヲ「ふぶくゑ」ノ如シ

體言ノ數

體言ニ單複二數ハ稱呼アリ單稱ハ單一ナル事物ヲ呼ブ即チ「ちち」^父「はは」^母「をまへ」^教「むらひ」^君ノ如ク複數ハ尚ホ其類アルベキ事物ヲ呼ブ即チ「ちち^父だち」^母「は^等だち」^教「をま^等へ^等など」^君「むら^等ひ^等あ^等ど」ノ如シ而メ體言ノ尾ニ附テ複數ニ呼ブ可キ辞ハ「たち」^等「とも」^等「など」^等「ら」^等等ナリ然レモ其辞ハ體言ノ種類ニ因テ附ク可キ者ト附ク可ラザル者トノ二個アリ今左ニ單複二數ヲ掲テ其例ヲ示ス

言實體單稱

お親や

言實體複稱

おやだら
親等

言虛體單稱

こ兒
つ妻ま
むをめ

言虛體複稱

こども
つまなど
むをめら
女等

言假體單稱

はる
あき

言假體複稱

はるども
あきなど
秋等

うたひ

うたひども
詠等

言代名單稱

われ
なれ
なむら

言代名複稱

われども
なれたち
なむらなど

右ノ如ク各種ノ體言ニ於テモ必ズ一物一事ノ觀ヲ爲

ス₁能ザル者ハ複數ノ辞ヲ附ク可ラズ殊ニ「たち」
ノ如キハ人類ノ名ヲ呼ブ辞尾ニ局ル者トス

體言ノ格

體言ヲ兼ル所ノ接辞ニ因テ其體言ノ他辞ニ関涉シ或
ハ互ニ係累スル變態ヲ現スヲ格ト名ク此格ヲ區別シ
テ第一格第二格第三格第四格獨立格ノ五個トス
第一格ハ 他ニ係累スル₁無ク文主ト成テ句頭ニ見
ル、格ヲ云フ此格ニハ能動受動自動被役動ノ活辞ヲ
記シ又狀態ヲ記ス即チ「父の談る」「母の呼ぶ」「馬の
騎らるる」「兵士の騎せらるる」「心の敏き」「心の赤き

「氷の融くる」「光の映ま」ノ如シ而シテ體言ヲ兼テ此
格ヲ見ス所ノ接辞ハは。も。の。が。ど。や。か。こ。と。ニテ其接辞
ノ格ハ皆連用トス又此接辞ヲ省ク₁アリ「父談る」「
母呼ぶ」ノ如シ
第二格ハ 體言ノ互ニ相關係スルヲ示スニ用フ即チ
「花の盛り」「神の世」「里の人」「人の心」ノ如シ而シ
體言ヲ兼テ此格ヲ見ス所ノ接辞ハの。が。ニテ其接辞ノ
格ハ共ニ連體トス又第二格ニ於テ接辞ヲ除ケバ合體
言ニ變ズル₁アリ即チ「はなざかり」「かみよ」「さと
びと」「ひとごころ」ノ如シ

第三格ハ 作業ノ標的ヲ示スニ用フ故ニ又此格ニハ
 與奪ヲ受ル所ノ事物ヲ安置ス即チ「父は子に教ふ」
 「女は母に習ふ」「鳥は花に轉る」「虫は叢に鳴く」
トハ鳥ト由トノ教ヲ受ル者ニシテ花ト業ノ如シ而ノ體
 言ヲ兼テ此格ヲ見ス所ノ接辞ハ「ヘ」ニテ其接辞ノ格
 ハ共ニ連用トス又稀ニ此接辞ヲ省クトアリ
 第四格ハ 活辞ヲ以テ示ス所ノ作業ノ直ニ及達スル
 事物ヲ見スニ用フ即チ「書を讀む」「字を書く」「月を
 觀る」「花を折る」ノ如シ而ノ體言ヲ兼テ此格ヲ見ス
 接辞ノをハ其格連用ナリトス又此接辞ヲ省クトアリ

「書讀む」「字書く」ノ如シ
 獨立格ハ 命令ヲ受ル所ノ事物ノ句頭ニ見ル、格ヲ
 云フ即チ「童子書を讀め」「童子よ馬に騎れ」ノ如シ

用言
 用言ハ事物百般ノ動作ト形容トヲ云フ者トス而ノ用言
 中其動作ヲ呼ブ者ヲ作用言トシ其形容ヲ呼ブ者ヲ形状
 言トス

作用言

作用言ハ事物百般ノ動作ヲ呼ブ所ノ活辞トス「雪ふ
 る」「月てる」「花さく」「風ふく」ノふるてるさくふく

ノ如シ蓋活辞ハ動作ヲ為ス者ヲ除ケバ一モ之ガ作用
ノ考察ヲ為スヲ能ザルヲ以テ獨リ人類ノミナラズ天
地間凡百ノ事物モ亦各其動作アル者ニ觀テ之ヲ論セ
ザル可ラズ故ニ事物ノ動作ヲ云フニ先ヅ種類ヲ分テ
其属スル所ノ諸法ヲ示ス

活辞ノ種類

活辞ハ動作ヲ呼ブ辞ニテ其中自ラ種類ノ分ル可キ者
五個アリ他ニ向テ動作ヲ與フル者ヲ能動ト稱ヒ他ヨ
リ受テ動作ヲ起ス者ヲ受動ト稱ヒ能動受動ノ中間ニ
在テ獨立ヲ為ス者ヲ自動ト稱ヒ他ヲ使役シテ動作ヲ

起サシムル者ヲ使役ト稱ヒ他ノ使役ヲ受テ動作ヲ起
ス者ヲ被使役ト稱フ而ノ此五個ノ活辞ハ皆其轉變ノ
法ニ成ル者ナリ

能動活辞

能動活辞ハ為ス所ノ動作ヲ他物ニ向テ與フル活辞ヲ
稱フ故ニ其上ニ必ズ第四格ヲ領ズ即チ「童子犬を」
「婦人兒を」抱だく「ノうついだく」如キモ撃ル、
所ノ者ト抱ク所ノ者トヲ知り得ルニ非ザレバ其動作
ハ未ダ那邊ニ在ルカヲ明瞭ニ為スヲ能ハザルヲ以テ
受動活辞ニ對スル作用ヲ云フ辞類トス

受動活辞

受動活辞ハ動作ヲ為ス可キ物體ノ其動作ヲ他ヨリ受テ起ス活辞ヲ稱フ故ニ其上ニ必ず第三格ヲ領ズ即チ「犬童子にうたると」被撃る「兒婦人にいだかる」抱「いだかる」抱ノうたるといだからノ如キモ撃ツ所ノ人ト抱ク所ノ人トヲ知り得ルニ非ザレバ其動作ハ未ダ那邊ニ在ルカラ明瞭ニ為ス「能ハザルヲ以テ能動活辞ニ對スル作用ヲ云フ辞類トス

自動活辞

自動活辞ハ為ス所ノ動作ノ獨リ其為ス物體ニ止リテ

毫モ他物ニ及達セザル活辞ヲ稱フ故ニ其上ニ必ず第一格ヲ領ズ即チ「日かがかがやく」暁「玉かがひかる」光「日かがくる」暮「夜あがくる」明ノかがやくひかるくるるあく引ノ如ク他物ニ関涉セズシテ其動作ハ明瞭ナルヲ以テ能動受動ノ中間ニ在テ獨立スル辞類トス

役動活辞

役動活辞ハ他ヲ使役シテ動作ヲ起サシムル活辞ヲ稱フ故ニ其上ニ必ず第四格ヲ領ズ即チ「童子に犬を」今「たたき」今「婦人に兒を」今「いだかき」今「うたき」今「いだかき」今ノうたきいだかきノ如ク他ヲ役シテ其動作ヲ起サシムル辞類トス

被役動活辞

被役動活辞ハ他ノ使役ヲ受テ動作ヲ起ス活辞ヲ稱フ
 故ニ其上ニ受動ト同ク必ズ第三格ヲ領ズ即チ「犬と
 親にうたせらる」被令撃「兒と夫にいだかせらる」被令抱「うたせ
 らる」被令撃「いたかせらる」ノ如ク他ノ使役ヲ受テ其動作ヲ起
 ス活辞ヲ云フ而シテ「月に浮れてある」所行「酒に酔て
 ねぶらる」所睡ト云フあるかるぬぶらるノ如キハ著シク
 使役ヲ與フル者ヲ見サズト雖モ細ニ其義ヲ解説スレ
 バ「我心ノ月ノ為ニ浮サレテ行ク」所行「我心ノ酒ノ為ニ
 酔セラレテ睡ル」所睡ノ義ニシテ即チ我心ノ月ト酒トノ

使役ヲ受テ其動作ヲ起セル者ト觀ル可シ蓋被役動活
 辞ハ受動活辞中一種ノ辞類トス命令辞ハ使役ノ

命令法

命令法ハ他ヲ使役スル動作ヲ示スニ用フ其法ハ活辞
 ノ轉變ノ格ト其辞尾ニ命令辞ノ兼接スルトニ因テ成
 ル者トス活辞ノ轉變ニ成ル者ハ四段ニ於テハ終ノ轉
 ジいけめせねてトシ下二段ニ於テハ始ノ轉ジへえめけねせねてねト
 シ第一變格ニ於テハ始ノ轉ジへえめけねせねてト
 ハ終ノ轉ジねトシ第三變格ニ於テモ亦終ノ轉ジねト
 ス

四段活辞

下二段活辞

第一變格活辞

第二變格活辞

第三變格活辞

因テ成ル者

然レ下二段ノ始ノ轉ジ心知ニ於テ命令ヲ示スハ獨リ上古ノ文法上ニ在ル者ニシテ中古以來ニ於テハ命令辞ヲ附加ス可キ法ニ歸ス古今集及ヒ順集等タル者アレバ普通ノ活辞ノ尾ニ命令辞ノ接續スルニ

四段活辞	汝はききね。	汝は <small>習</small> なうひね。
上二段活辞	汝は <small>着</small> きよ。	汝は <small>射</small> へよ。
下二段活辞	汝は <small>蹴</small> けよ。	汝は <small>辭</small> へよ。
上二段活辞	汝は <small>強</small> まひよ。	汝は <small>忍</small> まのびよ。
下二段活辞	汝は <small>謙</small> いさめよ。	汝は <small>集</small> あつめよ。
第一變格活辞	汝は <small>為</small> せよ。	汝は <small>來</small> きね。
第二變格活辞	汝は <small>往</small> いなむ。	
第三變格活辞	汝は <small>在</small> あらなむ。	汝は <small>居</small> をらなむ。

希求法ハ自ラ其心ニ求ムル動作ヲ示スニ用フ其法ハ

希求法

- 四段活辞
- 上二段活辞
- 下二段活辞
- 上二段活辞
- 下二段活辞
- 第一變格活辞
- 第二變格活辞
- 第三變格活辞

四段活辞	汝はききね。	汝は <small>習</small> なうひね。
上二段活辞	汝は <small>着</small> きよ。	汝は <small>射</small> へよ。
下二段活辞	汝は <small>蹴</small> けよ。	汝は <small>辭</small> へよ。
上二段活辞	汝は <small>強</small> まひよ。	汝は <small>忍</small> まのびよ。
下二段活辞	汝は <small>謙</small> いさめよ。	汝は <small>集</small> あつめよ。
第一變格活辞	汝は <small>為</small> せよ。	汝は <small>來</small> きね。
第二變格活辞	汝は <small>往</small> いなむ。	
第三變格活辞	汝は <small>在</small> あらなむ。	汝は <small>居</small> をらなむ。

活辭ノ尾ニ希求辭ヲ接續スルニ因テ成ル者トス接續
スル所ノ希求辭ニ單接スル者アリ複接スル者アリ單
接ハ希求辭ノ單ニ活辭ノ尾ヲ兼ル者トシ複接ハ活辭
ノ尾ニ過去辭ノ志テ志ニ志若クハ兩辭ノも等ヲ附テ
然リ後ニ希求辭ノ兼接スル者トス

○單接

○複接

- 四段活辭 讀 よまばや
- 一段活辭 見 みばや
- 一段活辭 綜 へばや
- 一段活辭 強 志ひばや
- 四段活辭 讀 よみにまがな
- 一段活辭 見 みにまがな
- 一段活辭 綜 へてまがな
- 一段活辭 強 志ひてまがな

下二段活辭

第一變格活辭

第二變格活辭

第三變格活辭

疑問法

疑問法ハ心ニ疑訝スル動作ヲ示スニ用フ其法ハ疑辭
ヲ句頭ニ置キ或ハ句中辭尾等ニ接續スルニ因テ成ル
者トス即チ「なにの花ぞ」「花か開くらむ」「花は匂ふ
や」ノ類

句頭ノ疑辭

句中ノ疑辭

辭尾ノ疑辭

たれの家ぞ 又や住むらむ 風は吹くや
 いづれの國ぞ 月か照るらま 花は開くや
 いか^に在るぞ 花かも開ける 鳥は鳴くや

崇敬法

崇敬法ハ崇敬スル動作ヲ示スニ用フ其法ハ活辞ノ轉
 變ト活辞ノ尾ニ崇敬辞ヲ接續スルトニ因テ成ル活辞
 ノ轉變ニ因テ成ル者ハ四段ノ佐行ニ再轉スルト下二
 段ノ良行ニ再轉スルトメ二個トス四段ノ佐行ニ再轉
 スル者ハ「よまさ」^讀「よま去」^讀「よま来」^讀「よませ」^讀ノ轉
 ジヲ云ヒ^ニ四段活辞ノ條^ニ下二段ノ良行ニ再轉スル者

ハ「いはれ」^言「いはる」^言「いはるる」^言「いはるれ」^言ノ轉ジ
 ヲ云フ^下受動形ノ轉^ノ條^ニ同ジ^ニ其表^ハ
 活辞ノ尾ニ崇敬辞ノ接續スルニ因テ成ル者ニ三種ア
 リ他ノ為ス作業ヲ呼ブ辞尾ニ附テ敬意ヲ示スト已ノ
 為ス作業ヲ呼ブ辞尾ニ附テ敬意ヲ示スト自他ノ為ス
 作業ヲ呼ブ辞尾ニ互ニ附テ敬意ヲ示ストナリ
 他ノ作業ニ附ル崇敬辞 已ノ作業ニ附ル崇敬辞

よみまを^讀 ききたまふ^聞
 はげませたまふ^願 おもひたまふ^思
 つとめさせたまふ^勉 みたまふ^見

つとめさせたまふ

自他ノ作業ニ附ル崇敬辞

我がつげまつる

人がつげまつる

我がつげたてまつる

人がつげたてまつる

我がつげまゐらむる

人がつげまゐらむる

活辞ノ時

時ハ說話ニ罹ル事ノ說話ヲ為ス時間ノ前後或ハ同時ニ在ル者ヲ云フ而メ其時ヲ分テ現在過去大過去未來想像過去ノ五時トス

現在時

現在時ハ「書をよむ」字をかかむノ

如ク說話ニ罹ル事ノ說話ヲ為ス時ト同瞬時間ニ在テ

遅速ナキヲ示ス者トス

過去時

過去時ハ「書をよみき」字をかかせきノよみきか

かせきノ如ク說話ニ罹ル事ノ說話ヲ為ス時ニハ全ク

過ぎ去リ了レルヲ示ス者トス

大過去時

大過去時ハ「書をよみたりき」字をかかせたりき

ノよみたりきかかせたりきノ如ク說話ニ罹ル事ノ説

話ヲ為ス時ニハ已ニ疾ク過ギ去リ了テ其影響ヲモ見
聞シ得可ラザルヲ示ス者トス

未來時

未來時ハ「書をよまむ」字をかかせむ」ノよまむか
かせむノ如ク說話ニ催ル事ノ說話ヲ為ス時ニハ未ダ
來ラザルヲ示ス者トス

想像過去時

想像過去時ハ「書をよみつらむ」字をかかせつらむ
」ノよみつらむかかせつらむノ如ク說話ニ催ル事ノ
說話ヲ為ス時ニハ已ニ過去ニ属シタル可キヲ想像ス

ルヲ示ス者トス

活辞時刻法

活辞ノ時刻ハ其轉變ノ格ト活辞ノ尾ニ現在辞過去辞
將來辞ノ單接スルト複接スルトニ因テ成ル者トス
轉變ノ格ニ因テ成ル時ハ次章ニ舉ル所ノ將然。截斷。連
體。已然。ノ四格ニシテ將然。連體。已然。ノ三格ハ接辞ノ結
合ヲ得ルニ非ザレバ其全形ヲ成ス不能ナル者ナリ
活辞ノ連體ハ截斷ト同シ轉シナルニ因リ接
辞ノ兼接ヲ待ズシテ其全形ヲ示ス者トス

○將然

○截斷

未來時

よ讀

ま

現在時

は取

づ

いざなは
誘

○連體

も然ゆる
きゆる

現在時

活辞ノ尾ニ現在辞。過去辞。将来辞。ノ單接スルト復接スルトニ因テ成ル時ハ皆其全形ヲ成ス者トス

○單接

現在時

よむなり
よみなり
かくなる
よみき

大過去時

想像過去時

よみにたり
よみけむ
かきたりき
よみつらむ

○復接

うらむ
恨

○已然

い往ぬ
を為れ

過去時

かきたりけむ
書

未來時

かきき
よまむ
かかまふ

過去時ト想像過去時トハ單複ヲ變更シテモ亦各其時ヲ示スアリ

○複接

○單接

過去時

よみぬなり
かきたるなり

想像過去時

よみけむ
かきけむ

活辞ノ轉變并表

活辞ノ轉變ヲ左ノ六種ニ分ツ

四段 上一段 下一段 變格

今飽字ヲ四段ニ轉ジ射字ヲ上一段ニ轉ジ蹴字ヲ下一段ニ轉ジ起字ヲ上二段ニ轉ジ受字ヲ下二段ニ轉ジ為字ヲ變格ニ轉ジ試テ其轉變ノ法ヲ示ス

四段 飽 あか あき あく あけト順ニかき

上一段 射 い。い。い。れト一音ノ辞尾ニるれ

下一段 け。け。け。れト一音ノ辞尾ニるれ

ヲ附ル者ヲ云フ

上二段 起 おき。お。く。お。く。れト順ニ

き。く。ノ二段ニ轉ジくノ尾ニるれヲ附

ル者ヲ云フ

下二段 受 う。け。う。く。う。く。れト逆ニ

け。く。ノ二段ニ轉ジくノ尾ニるれヲ附

ル者ヲ云フ

變格 爲 せ。ま。ま。ま。れトせまをノ

三段ニ轉ジまノ尾ニるれヲ附ル者ヲ

云フ然レ氏變格ハ表ニ掲グル如ク轉

變一ナラズ或ハ四段ノ活辞ト同クシ
テ格ノ異ナル者アリ或ハ四段ニ轉ジ
テるれヲ添フル者アリ

活辞ノ轉變スル階級上ニ六個ノ格アリ將然連用假體。
截斷連體已然ト云フ

將然

將然ハ動作ノ將ニ成ントスル格ヲ云フ「字をたらは
む」書とよまむ「ノならはよまノ如ク未ダ其事ノ始
ラザル前ヲ云フ而ノ其時ハ未來トス

連用

連用ハ動作ノ絶エズシテ連續スル格ヲ云フ「ならひ
そむ」よみはむむ「ノ如クならひよみト云フ格ヨリ
直ニそむはむト云フ用言ニ連續スルヲ云フ而ノ其
時ハ接辞ノ結合ニ因テ過去ヲ見ス者トス

假體

假體ハ實體言ト其用ヲ同クスル格ヲ云フ「まつりに
往く」を去へを受く「ノまつりを去へノ如ク動作ノ
一個ノ形ヲ爲ス者トス

截斷

截斷ハ動作ノ連續セズシテ切ル、格ヲ云フ「友をあ

「つむ」馬をはき「ノ一つむは走ノ如ク一個ノ動作ノ切ル、者トス而ノ其時ハ現在トス

連體

連體ハ體言ニ連續スル格ヲ云フ「山をこゆる」「人を

ほゆる」ノ如クこゆるほゆるト云フ格ヨリ直ニ人犬

ト云フ體言ニ連續シテ「山をこゆる人」「人をほゆる

犬」ト云フガ如シ而ノ其時ハ現在トス

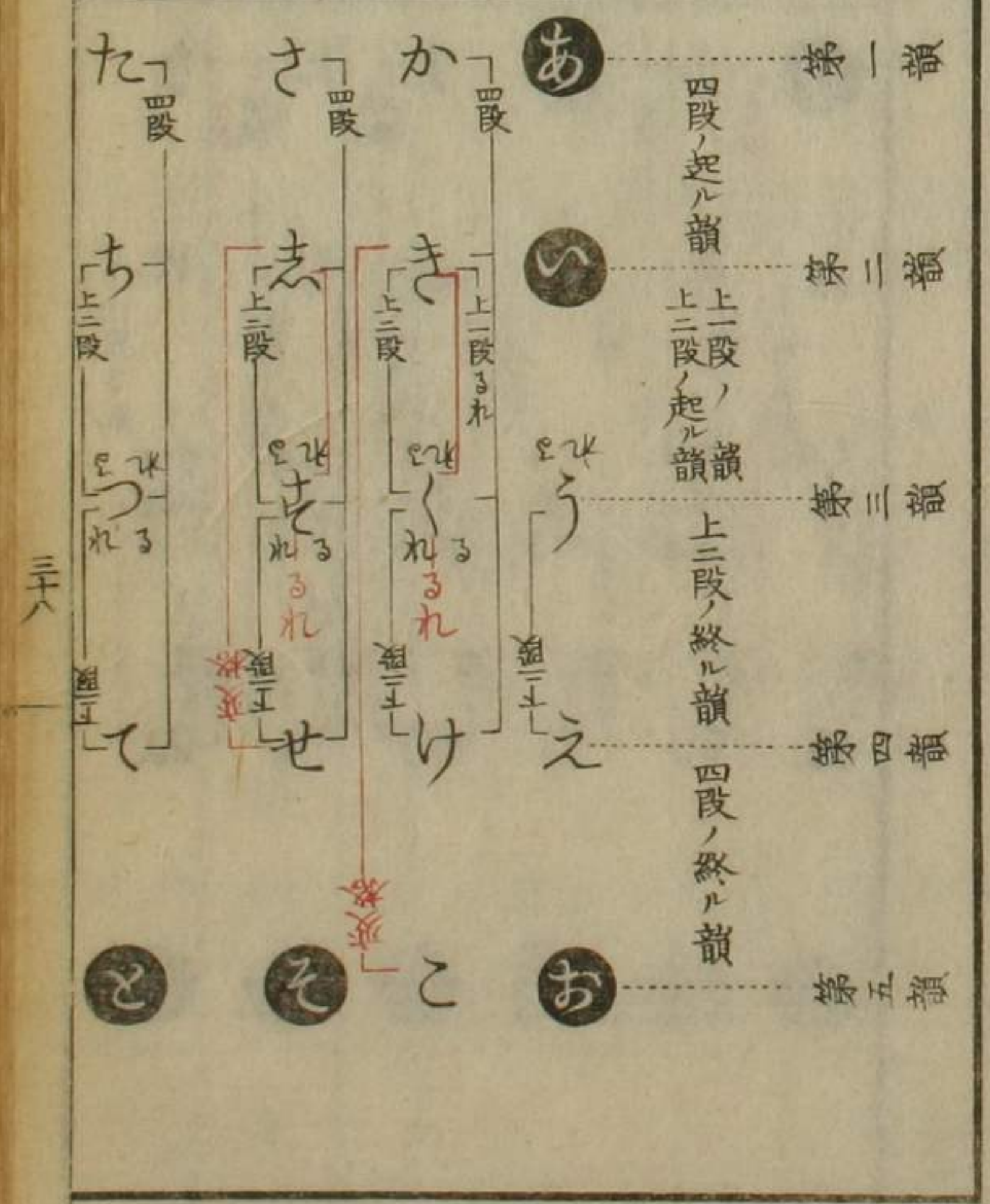
已然

已然ハ動作ノ全ク終ル格ヲ云フ「君をいさむれば」

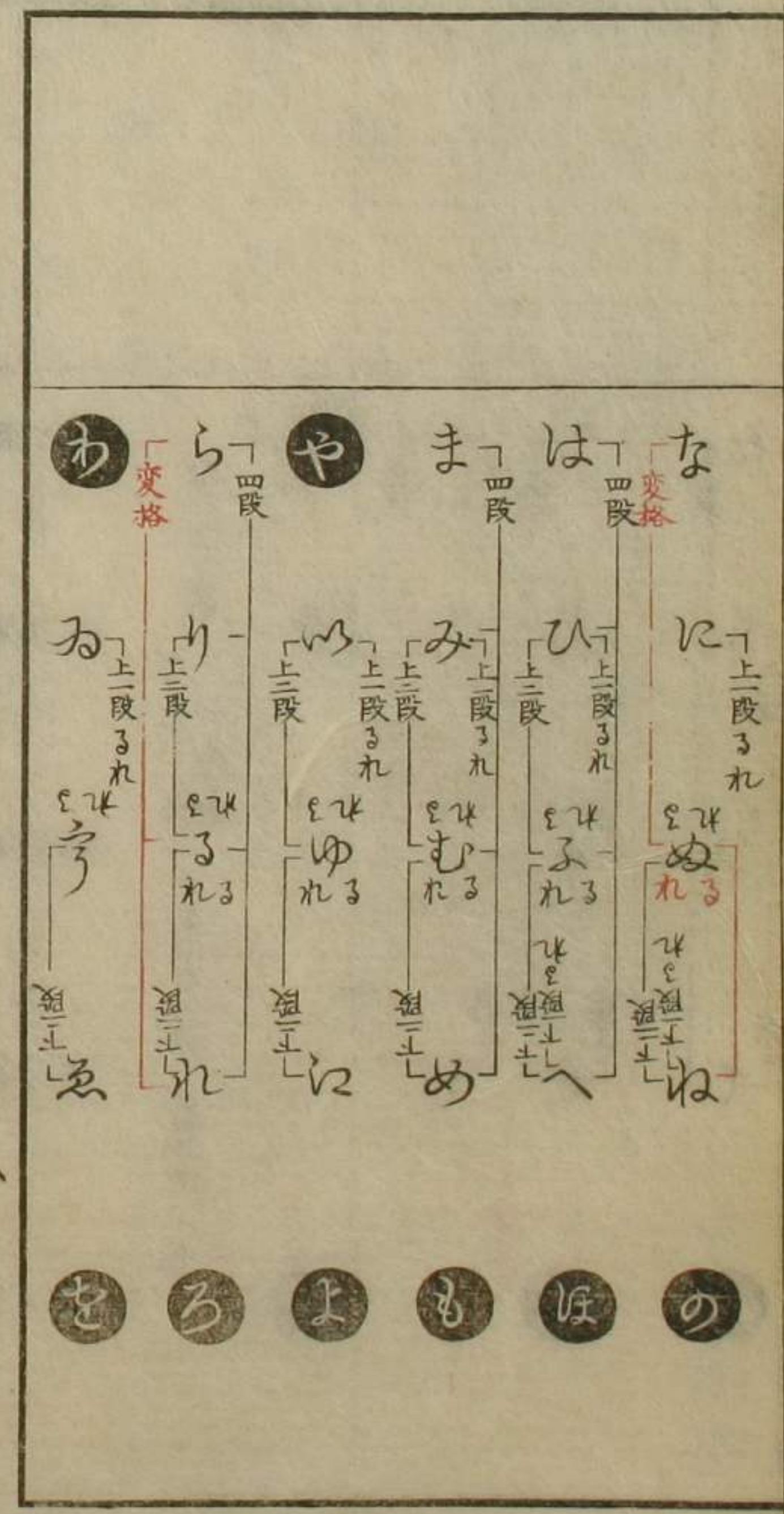
齡おゆれば」ノいさむれおゆれノ如ク已ニ其事ノ終

レル後ヲ云フ而ノ其時ハ過去トス

活辞轉變表



右ニ擧ル活辞轉變ノ總表ヲ四段上一段等ノ各種ニ分別シ右傍ニ其格ヲ掲ゲ格ニ因テ兼ク可キ普通ナル接辞ヲ其格ノ欄内ニ収テ覽閱ニ便ス



四段

將然連用

假體

截断

連體

已然

釣	住	逢	打	押	飽
ら	ま	は	た	さ	か
<small> ば <small>種接辞</small> ぬ <small>指し辞</small> ぬ <small>指し辞</small> ぬ <small>指し辞</small> ぬ <small>指し辞</small> ぬ <small>指し辞</small> ぬ <small>指し辞</small> </small>					
り	み	ひ	ち	ま	き
<small> り <small>種接辞</small> たり <small>種接辞</small> たり <small>種接辞</small> たり <small>種接辞</small> たり <small>種接辞</small> たり <small>種接辞</small> </small>					
とも <small>両辞</small> は <small>両辞</small> を <small>指し辞</small> の <small>指し辞</small> に <small>指し辞</small>					
る	む	ふ	つ	ま	り
<small> る <small>分量辞</small> ば <small>分量辞</small> たり <small>種接辞</small> たり <small>種接辞</small> たり <small>種接辞</small> たり <small>種接辞</small> </small>					
より <small>種接辞</small> さら <small>種接辞</small> さら <small>種接辞</small> さら <small>種接辞</small> さら <small>種接辞</small> さら <small>種接辞</small>					
れ	め	へ	て	せ	け
<small> れ <small>種接辞</small> たり <small>種接辞</small> たり <small>種接辞</small> たり <small>種接辞</small> たり <small>種接辞</small> </small>					
は <small>種接辞</small> とも <small>種接辞</small> ど <small>両辞</small>					

上一段

將然

連用

假體

截断

連體

已然

着	き	む	て	に	き	なり	かな	きれ	ど
<small> 着 <small>種接辞</small> たり <small>種接辞</small> たり <small>種接辞</small> たり <small>種接辞</small> たり <small>種接辞</small> </small>									
に <small>指し辞</small>									
<small> き <small>分量辞</small> たり <small>種接辞</small> たり <small>種接辞</small> たり <small>種接辞</small> たり <small>種接辞</small> </small>									
かな <small>種接辞</small>									
<small> きれ <small>種接辞</small> たり <small>種接辞</small> たり <small>種接辞</small> たり <small>種接辞</small> たり <small>種接辞</small> </small>									

下二段 將然 連用 假體 截斷 連體 已然

起 掘 落 戀 恨 老 舊

き ま ぢ み ひ み り
將然 然 然 然 然 然 然
ま ぢ ぢ ぢ ぢ ぢ ぢ
ま ぢ ぢ ぢ ぢ ぢ ぢ
ま ぢ ぢ ぢ ぢ ぢ ぢ

て け け け け け け
現在 現在 現在 現在 現在 現在 現在
て け け け け け け
て け け け け け け
て け け け け け け

に の を は 両 とも
指示 指示 指示 指示 指示 指示 指示
に の を は 両 とも
に の を は 両 とも
に の を は 両 とも

く ろ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ
現在 現在 現在 現在 現在 現在 現在
く ろ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ
く ろ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ
く ろ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ

に け け け け け け
指示 指示 指示 指示 指示 指示 指示
に け け け け け け
に け け け け け け
に け け け け け け

れ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ
已然 然 然 然 然 然 然
れ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ
れ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ
れ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ

上二段 將然 連用 假體 截斷 連體 已然

蹴 陪 綜

け ね へ
將然 然 然
ま ぢ ぢ ぢ ぢ ぢ ぢ
ま ぢ ぢ ぢ ぢ ぢ ぢ
ま ぢ ぢ ぢ ぢ ぢ ぢ

て け け け け け け
現在 現在 現在 現在 現在 現在 現在
て け け け け け け
て け け け け け け
て け け け け け け

に の を は 両 とも
指示 指示 指示 指示 指示 指示 指示
に の を は 両 とも
に の を は 両 とも
に の を は 両 とも

く ろ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ
現在 現在 現在 現在 現在 現在 現在
く ろ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ
く ろ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ
く ろ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ

に け け け け け け
指示 指示 指示 指示 指示 指示 指示
に け け け け け け
に け け け け け け
に け け け け け け

れ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ
已然 然 然 然 然 然 然
れ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ
れ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ
れ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ

下一段 將然 連用 假體 截斷 連體 已然

似 干 見 射 般

に ひ み い ろ
將然 然 然 然 然
ま ぢ ぢ ぢ ぢ ぢ ぢ
ま ぢ ぢ ぢ ぢ ぢ ぢ
ま ぢ ぢ ぢ ぢ ぢ ぢ

て け け け け け け
現在 現在 現在 現在 現在 現在 現在
て け け け け け け
て け け け け け け
て け け け け け け

に の を は 両 とも
指示 指示 指示 指示 指示 指示 指示
に の を は 両 とも
に の を は 両 とも
に の を は 両 とも

く ろ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ
現在 現在 現在 現在 現在 現在 現在
く ろ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ
く ろ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ
く ろ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ

に け け け け け け
指示 指示 指示 指示 指示 指示 指示
に け け け け け け
に け け け け け け
に け け け け け け

れ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ
已然 然 然 然 然 然 然
れ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ
れ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ
れ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ ぢ ろ

第二變格

往
將然
連用
假體
截斷
連體
已然

爲來
將然
連用
假體
截斷
連體
已然

第一變格

飢 枯 消 譽 辨 兼 捨 瘦 受 得
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

四段 一段 一段
 四段 一段 一段
 下一段 上一段

あぢむく
 欺さなふ
 い誘ふ
 い射る
 に煮る
 け蹴る

四段 一段 一段
 四段 一段 一段
 下一段 上一段

あまる
 餘まむ
 に似る
 ひ干る
 ね磨る

能動

自動

四段以下下二段ニ至ル迄ノ轉變上ニ於テ普通ニ見ル
 、活辞ノ形ハ能動。自動。ノ二種ニシテ受動。役動。被役動。
 ノ三種ハ總テ各段ノ活辞ノ再ビ下二段ニ移レル轉ジ
 ニ成ル者トス

第三變格

居有	將然	死
① は種接辞 ぬぬおでを 否不接辞 まま む 將來辞	將然 ① は種接辞 ぬぬおでを 否不接辞 まま む 將來辞	① は種接辞 ぬぬおで
② は種接辞 ぬぬおでを 否不接辞 まま む 將來辞	連用 ② は種接辞 ぬぬおでを 否不接辞 まま む 將來辞	② は種接辞 ぬぬおで
③ は種接辞 ぬぬおでを 否不接辞 まま む 將來辞	假體 ③ は種接辞 ぬぬおでを 否不接辞 まま む 將來辞	③ は種接辞 ぬぬおで
④ は種接辞 ぬぬおでを 否不接辞 まま む 將來辞	截斷 ④ は種接辞 ぬぬおでを 否不接辞 まま む 將來辞	④ は種接辞 ぬぬおで
⑤ は種接辞 ぬぬおでを 否不接辞 まま む 將來辞	連體 ⑤ は種接辞 ぬぬおでを 否不接辞 まま む 將來辞	⑤ は種接辞 ぬぬおで
⑥ は種接辞 ぬぬおでを 否不接辞 まま む 將來辞	已然 ⑥ は種接辞 ぬぬおでを 否不接辞 まま む 將來辞	⑥ は種接辞 ぬぬおで

上二段

下二段

受動

去強	う恨ら	と去	さづ	あざむかる	いざなはる	に煮る	いらる	けらる
ふ	む	ふ	く	かる	はる	る	る	る

上二段

下二段

役動

お光	ふ奮	ひ秀	も前	おはせ	もたせ	きさせ	みさせ	へさせ
ゆ	る	づ	ゆ	せ	せ	せ	せ	せ

上二段活辞ノ下二段ニ移レル形

下二段活辞ノ下二段ニ移レル形

志ひらる	うらみらる	あづけらる	さづけらる
被強	被恨	被預	被授

被役動

上二段活辞ノ上二段ニ移レル形

下二段活辞ノ下二段ニ移レル形

はぢさせ	くらさせ	うゑさせ	つげさせ
令耻	令朽	令植	令命

下二段活辞ノ下二段ニ移レル形

下二段活辞ノ下二段ニ移レル形

おはせらる	もたせらる	きさせらる	みさせらる
被令追	被令持	被令着	被令見

然レモ各段ノ活辞ニ於テ各種ノ形ヲ固有ニ具ヘタル

ハ下二段ニ移サバル者多シ例へバ能動形ナル「を志
 教」ニ對スル受動形ノ「を志へらる」ト云フ辞ハ用
 ヒズシテ固有ノ受動形ナル「なうふ」ヲ用ヒ或ハ能
 動形ナル「あたふ」ニ對スル受動形ノ「あたへらる
 與」ト云フ辞ハ用ヒズシテ固有ノ受動形ナル「うく
 ヲ用フル類ノ如シ然レモ各段ニ在テ能動形ニ混同シ易
 キ者アリ今一例ハ四段ノ自動形ニシテ受動ト云フ非
 カシ如シ「かうハ」ハ四段ノ自動形ニシテ受動ト云フ
 シレモ動モスレバ「ト云フ」下カ「お」ト對稱シ能
 為動形ガ如シ
 一辞ノ各段ニ轉ジテ能動以下五種ノ活辞ノ形ヲ成ス

者モ亦多シ今一二ヲ舉テ其例ヲ示ス

能動

受動

こらむ 活四段
 こらさる 活二段
 ふるむ 活四段
 ふるさる 活二段
 のこむ 活四段
 のこさる 活二段

こらむ 活四段
 こらさる 活二段
 ふるむ 活四段
 ふるさる 活二段
 のこむ 活四段
 のこさる 活二段

役動

被動

こむ 活四段
 こむる 活二段
 ふむ 活四段
 ふむる 活二段
 のこむ 活四段
 のこむる 活二段

こむ 活四段
 こむる 活二段
 ふむ 活四段
 ふむる 活二段
 のこむ 活四段
 のこむる 活二段

こらさそ 下二段
今 徳 活用
ふるさそ 下二段
今 奮 活用
のこさそ 下二段
今 残 活用

四段活辞

四段活辞ノ終ノ轉ジハハ接辞ノ兼接ヲ待ズシテ
命令ヲ示ス者トス乃チ「書とよめ」字をか「ノ如
シ然レド其第一ノ轉ジハハ第二ノ轉ジハハ他
ノ活辞ト同ク命令辞ノ接續ヲ得ザレバ其意ヲ示ス
能ハズ

こらさせらる 下二段
被 今 徳
ふるさせらる 下二段
被 今 奮
のこさせらる 下二段
被 今 残

四段再轉

四段活辞ノ再々其佐行ニ稱ス其佐行ニ轉ズル
者アリ之ヲ四段再轉ト稱ス其佐行ニ轉ズル者ハ將然
格ヨリ移ル將然格ヨリ佐行ニ移ル者ハ已然格ヨリ移ル
者ハ已然格ヨリ良行ニ移ル者ハ「あかせら」
ト轉ジテ其動作ヲ崇敬スル活用トス

四段 佐行再轉

釣住 逢打 押 飽
(さ)
(志)
(た)
(せ)

已然格ヨリ良行ニ移ル者ハ「あかせら」
「あかせり」

あかせる。あかせれ。あへら。あへり。あへる。あへれ。
ト轉ジテ其動作ノ然カ在ルヲ云フ活用トス

四段 良行再轉

釣住 逢打押飽
ら
り
る
れ

下二段活辞

下二段活辞ノ始ノ轉ジへえめいせハ接辞ノ兼接ヲ待
ズシテ或ハ命令ヲ示ス者トス乃チ「火はも^燃」氷は
とけ」ノ如シ然レモ此用法ハ獨リ上古ノ文法上ニ在
ル者ニシテ中古以來ニ於テハ他ノ活辞ト同ジ命令

辞ヲ附加ス可キ法ニ歸ス

下二段再轉

四段以下各段ノ活辞ヨリ下二段ノ佐行せもれ良行れ
ノ二行ニ移テ再轉スル者アリ之ヲ下二段再轉ト
云フ下二段ニ再轉スル各段ノ活辞ハ必ず將然格ヨリ
移ル而シテ下二段ニ移テ再轉スル形ハ受動被役動及ビ動作
及ビ動作ヲ崇敬スル轉ジノ四種ニシテ佐行ニ轉ズル
者ヲ役動トシ良行ニ轉ズル者ヲ受動被役動及ビ動作
ヲ崇敬スル轉ジトス四段活辞ノ佐行ニ移テ役動ノ形
ヲ成スハ將然格ヨリ直ニ「あかせ」今飽「あかせ」今飽「あかせ」今飽

る。あかたれ。ト轉ジ其他ハ皆其將然格ノ辞尾ニさ
マ附テ「きさせ。」「きさ。」「きさ。」「きさ。」ト
轉スル者トス

段二下 佐行再轉

捨	恨	蹴	着	飽
せ				
せ				
せる				
せれ				

四段活辞ノ良行ニ移テ受動ノ形及ビ動作ヲ崇敬スル
轉ジテ成ス者ハ將然格ヨリ直ニ「あかれ。」「あか
あかる。」「あかるれ。」ト轉ジ其他ハ皆將然格ノ辞尾
ニラマ附テ「きられ。」「きらる。」「きらるる。」
「きらるるれ。」ト轉ズル者トス

ト轉ズル者トス而ノ其被役動ノ形ヲ成ス者ハ佐行
再轉ノ將然格ノ辞尾ニラマ附テ更ニ良行ニ移リ「あ
かせられ。」「あかせらる。」「あかせらるる。」
「あかせらるるれ。」ト轉ズル者トス

段二下 良行再轉

捨	恨	蹴	着	飽
れ				
る				
るる				
るれ				

變格活辞

變格活辞ノ第一變格ノ始ノ轉ジヨリ「こ。志。」
ト過去辞ノ志兼ル格ヲニ續キ第三變格ノ第二ノ轉ジヨ

リ「ありや」とりや」ト疑辞ノや兼断格ヲニ續キ又「
 ありと」有「とりと」居ト兩辞ノと兼断格ヲニ續キ又「あり
 有」居「とりか志」ト一種接辞ノか志兼断格ヲニ續ク然
 レレ其連續スル所ノ接辞ノ格ヲ推テ直ニ第一變格ノ
 始ノ轉ジハ連用ノ格ヲ兼ネ第三變格ノ第二ノ轉ジハ
 截断ノ格ヲ兼タリトハ定ム可ラズ只其格ノ第一ノ轉ジ
 轉格ノ變ト觀ルベキ者ナリ變格ノ表中ニ連用及如ク截
 作レ示者ハ只其連續
 第一變格ノせ志をまるれハ假體ノ尾ニ附テ「ま祭
 りを」遊「あ遊びを」戰「た戰かひを」戰「た戰はぶれを」ト云ヒ

又漢語ノ尾ニ附テ「かんぞ」「らんぞ」「かうやうを」
 べんきやうを」ト云フ類已ニ其假體ト成リタル辞尾
 二附テ再ビ之ヲ働カスルニ用フル者トス

形状言

形状言ハ事物百般ノ形容ヲ示ス辞トス即チ「月は清
 よ志」紅「花はあか志」長「ながく居る」長「ひさしく住む」
 きよ志あか志ながくひさしく如シ蓋形状言ハ本ト
 體言ノ尾ニ單複ノ活用辞ヲ附テ之ニ活用ヲ命ズル者
 ナリ故ニ其活用辞ヲ除クハきよあかひらひさノ如
 ク皆其原語タル形容ヲ示ス所ノ虚體言ニ歸ス體言及

言ノ如キモ其始ハ一音或ハ二音ニシテ後ニ四音五音ト重ナレル者ナリ然ルニ形状言中ニ於テモ原語ノ疑ルシキ如キ者アルハ已ニ多ク重ナルル言辞ヲ呼ビ馴ラタ考ルニ論ガ如シラレ

形状言ノ轉變并表

形状言ノ轉變ハ形容ヲ呼ブ體言ノ移リ來テ轉ズル者ヲ云フ其轉變ヲ單辞複辞變格ノ三種ニ分ツ今憎字ヲ單辞ニ轉ジ戀字ヲ複辞ニ轉ジ速字微字ヲ變格ニ轉ジ試テ其轉變ノ法ヲ示ス

單辞 憎 にくさ。にくく。にくゑ。にくき。

複辞 戀 にくげ。とさく。まき。げニ轉ズル者ヲ云フ

復辞 戀 こひまき。こひまく。こひま。こひまき。

げニ轉ズル者ヲ云フ へむやけ。へむやけま。へむやけま。

變格 微速 き。く。まき。又ま。こま。ま。こま。

こまきノま。まきニ轉ズル者ヲ云フ

單辞ニ轉ズル原語ハ之ヲ重ヌル片ハ複辞ノ轉ジニ變ズル者ナリ即チ憎字ハ單辞ノ轉ジナレバ之ヲ重ヌレバ複辞ニ變ジテ「にくにくまき」「にくにくまき」に

くにくま」「にくにくまき」「にくにくまげ」ト轉ズル

如シ

形状言モ亦作用言ト同ク其轉變スル階級上ニ左ノ四
個ノ格ヲ有ツ

連用 假體
截斷 連體

今此四個ノ格ヲ表ノ右傍ニ掲ゲ格ニ因テ兼ク可キ普
通ナル接辞ヲ其格ノ欄内ニ収ムル一作用言ニ同ジ

單辞

憎	假體
かま	現在辭
て	現在辭
の	指示辭
に	指示辭
や	單辭
かま	單辭
に	指示辭

假體連用假體假體截斷連體假體

複辞

寒安	假體
にまはの	指示辭
もさだに	兩辭
も	兩辭
をは	兩辭
の	指示辭
とも	兩辭
も	兩辭
はに	指示辭
も	兩辭
はの	兩辭

假體連用假體假體截斷連體假體

戀樂恠	假體
にまはの	指示辭
もさだに	兩辭
も	兩辭
とはの	指示辭
の	指示辭
とも	兩辭
も	兩辭
はに	指示辭
も	兩辭
はの	指示辭

單變格

速	連用
①	現在辭
だに	兩辭
ま	單辭
や	單辭
き	單辭
はに	指示辭

連用 截斷 連體

辭複
變格

微	連	用	假	體	截	斷	連	體
ま	も	さへ	だに	て	現在辭	ま	こ	さへ
ま	こ	さへ	だに	て	現在辭	ま	こ	さへ
ま	こ	さへ	だに	て	現在辭	ま	こ	さへ
ま	こ	さへ	だに	て	現在辭	ま	こ	さへ
ま	こ	さへ	だに	て	現在辭	ま	こ	さへ

形状言ノ變化

形状言ノ變化ハ轉ジノ作用四段ニ移ルヲ云フ而ノ其
 移ル轉ジニ二種アリ其第一ハ麻行ノ四段びおニ轉ジ
 其第二ハ良行ノ四段ぶらニ轉ズ之ヲ形状ノ四段活用

ト云フ

麻行ノ四段ニ轉ズル者

麻行ノ四段ニ轉ズル所ノ形状言ハ單辭ハ其原語ヨリ
 直ニ移リ複辭ハ其轉ジノま第三ノヨリ移ル者トス乃
 チ左ノ如シ

單辭 にくま。
にくみ。
にくむ。
にくめ。

複辭 たのま。
たのま。
たのま。
たのま。

麻行ノ四段ニ轉ズルまニ混ヒ易キ者アリ即ま雪の
 ふりみふらぎみ「風まのふきみふかぎみ」等ノみ是ナ
 リ此みハ一種ノみニシテ「夜まをさむみ」夜まをうむみ。

等ノミト異ナリ「さむみ」「うきみ」ノミハ形状單

辭ニ轉ズベキ原語ノ麻行ニ轉ゼシ者ナレバ其ミヲ除

クハハ原語ニ歸リ又單辭ニモ活用スベシ故ニ形容ヲ

云フ辭ニ属スルミハ悉ク此麻行ノミナルハ昭ニ知ラ

ル可シト雖モ初學ニ在テハ動モスレバ一種ノミニ混

フルヲアリ故ニ今麻行ノミト併セテ左ニ例ヲ掲グ

○麻行ノミ ○一種ノミ

單辭 宮とありみ。 月のてりみ。てらむみ。

單辭 夜とうきみ。 雨のふりみ。ふらむみ。

單辭 風とはやみ。 空のはれみ。くもりみ。

單辭 水とあさみ。 人のなみ。なまむみ。

單辭 底とふかみ。 人のなきみ。わらひみ。

複辭 人をこひまみ。 舟のうきみ。まづみ。

複辭 人をなつかまみ。 物のみえみ。み江むみ。

複辭 名をむつまむみ。 兒をおひみ。いだきみ。

複辭 世をくるまみ。 弓をひきみ。ゆるべみ。

複辭 秋をかまみ。 道をゆきみ。ゆかむみ。

一種ノミト稱スルミハ右ニ舉タル如ク皆事物ノ動作

ヲ呼ブ所ノ辭尾ニ属シテ其動作ヲ試ムル義ノ辭トス

試ニテ書キ得ベキヤ書テ試シテノ類ノミナリ故ニ「月

のてりみでらむみハ俗語ニ所謂「照りてみたり照らむてみたり」ノ義ニテ全ク形状言ノ麻行ニ轉ズル者ト異ナルヲ知ル可シ

良行四段ニ轉ズル者

良行ノ四段ニ轉ズル所ノ形状言ハ單辭ハ其轉ジノく。第ニノニあヲ附テ移リ複辭ハ其轉ジノ去ク轉ジノニあヲ附テ移ル者トスノあヲ附テ移ルハ實ハ有字聲ナレニ移ルヲ云フ然レモ良行ハ恐レテ故サテあノ附ル者トセリ

復辭

やまゝあり
こひまゝあり
こひまゝあり
こひまゝあり
こひまゝあり

此良行ニ轉ズル所ノ形状言ハ切音ト通音トニ因テ二個ノ變形ヲ成ス者トス其第一ハ「やまゝあり」ト云フ。ト云フ。あノ二音ノ約リテかノ一音ニ歸シタル變形ヲ云フ

第一變形

やまゝから
こひまゝから
やまゝかり
こひまゝかり
やまゝかれ
こひまゝかり

一ノ

一ノ

其第二ハ「やをくある」コヒまかる
「コヒまかる」コヒまかる
「コヒまかる」コヒまかる
ノ約リタルかノ通音ニ因リ更ニケニ變ズル者ヲ云フ
第一音ヲ第四音ニ移ニハハ集ニ「雪かも零らる如シ」

第二變形

第二變形中ノ第一音ノら。ヤをける
直ニケヨリ將然ヲ兼ル所ノ接辞ニ續クル例ハ省テ
「コヒまける」コヒまける
「コヒまける」コヒまける
「コヒまける」コヒまける
「コヒまける」コヒまける

集ニ「國の遠かば」トマ善か
而ノ此第二變形ハ善カラ
シ易カテ古書ニハニ徵シテ細ニ之ヲ說ザレバ或ハ理會
書名ヲ掲グル者アリテ故請フ他之例勿レテ左ノ例ノ
如シ

單辭

複辭

十萬卷集 八萬卷集 古萬今集 十萬葉集
やをくある 三萬卷集 十萬葉集 古萬今集
右ニ舉ル所ノ第二變形ノケヲ兼タルむ。

初學支

五四

ば。ハ皆將然ヲ兼クベキ格ノ接辞ナレバ

けむシト云ヒテからむハヤカらム安

ひからノ意ニ聞キ得ルヲ以テ其らハヲ省タルヲ證

明スルニ足ル可シ

第二音ノりヤセけりクひハ第三音ノるヤセけりクひハ

通音ナレト古來其けりハヲ用ヒズシテ直ニ第一變

形ノかりヤセかりハヲ用フル例トス乃チ左ノ如シ

やセかりハさセむハかりハこセひハまセかりハたセのハまセかりハ

安ヤセかりハさセむハかりハこセひハまセかりハたセのハまセかりハ

第四音ノれヤセけりハれコひハ第一變形ノかれハヲ用ヒズ

記紀萬葉等ノ古言ノ歌ニ多シテ普通ニけれハヲ用フ

ルハ左ノ例ノ如シ

やセけれハさセむハけれハ

こセひハまセけれハたセのハまセけれハ

形状言くハまセくノ變化

形状言ノくハまセくニ二種ノ變化アリ其第一ヲ接辞ノ兼

接ニ生ズル變化トシ其第二ヲ伸音ニ生ズル變化トス

第一 くハまセくノ變化

單辞複辞ノくハまセくヨリ一種接辞ノばハ將然格ヲ兩辞ノとハ

もハ兼セル格ヲニ係ルハアリヤセくハこセひハまセくハヤセ

安^安をくとも「こひまくとも」ノ如シ此接續ハ第一變形
 ニテ「やまからば」^安「こひまからば」^安「やまかりとも」^安
 こひまかりともト云フベキカヲくニ移シテリヲ
 省ケルナリ兼集卷ニ移ス例ハ「息つかば」ト云ヘリヲ萬
 ヲ省クハ第二變形ノ如クリヲ省クハ「つくり」ト云フ如シヲ
 何く「だ」^退「い」^出「は」^出「レ」^出「マ」^出「カ」^出「デ」^出「ト」^出「フ」^出「如」^出「シ」^出「ヲ」^出
 然ニくまくとハ單複共ニ第二ノ轉ジニテ其格ハ連用
 假體ナレバ將然截斷ヲ兼ク可キばともト連合ス可
 キ理無キニ常ニ連合スルヲ以テくまくとニ將然截斷
 ノ格アリト説ク者アルハ非ナリ若シ此説ノ如クバ
 複辞ノまけむげばニ連續スルモ亦其格無ル可ラ

ズ果シテ然ラバ其格ハ何等ノ格ニテ連續シ又けむ
 げばノ「からむ」^レ「からば」^レノ意ニ聞ユルハ何等ノ
 辞義ニ係ルカモ之ガ解説ヲ要メザルヲ得ザルガ如
 シ蓋此説ヲ爲ス者ハ形状一般ノ變化ヲ通觀セザル
 ニ因ルナル可シ

第二 くまくの變化

單辞複辞ノくまくとくまくと延テけくまけくと呼ブア
 リ即チ單辞ノ「やま」^安ヲ「やまけく」^安「さむく」^安ヲ
 「さむけく」^安「複辞」^安ノ「こひま」^安ヲ「こひまけく」^安
 たるま」^安ヲ「たるまけく」^安ト云ヘルガ如シ而シテ此

ト延タルけくニ終へ易キ者アリ「たひらけく」や
まらけく」ノけく是ナリ今延タル者ト異ナル者トヲ
併セテ左ニ其例ヲ示ス

○延タル者

やま けく
さむ けく
ねた けく
とま けく
こひ けく

○異ナル者

やまら けく
たひら けく
あきら けく
ゆた けく
かそ けく

此伸音ノけくノ中ニくヲ除テけヨリさくまきげニ轉
ズル者アリ「さむけく」さむけく「さむけく」さむ
けき「さむけく」ノ如シ
下段ニ擧タルけくハ伸音ニ非ズシテ辞尾ノ音ノ轉ゼ
シ者トス例ヘバ「たひらか」やまらか「ト云フベキ
カヲ第四音ノけニ轉シ第一音ノ餘第ニ四音ケニ移
ルガ如シ第一
而ノ「たひらけく」たひらけく「たひらけく」たひ
らけき「たひらけく」やまらけき「やまらけき」や
まらけき「やまらけき」

まらけ。去。」「やまらけき。」「やまらけげ。」「ト單辭ノさく。
まきげ。ニ活用セシ第二ノ轉ジノけくナリ。

單辭ノげ

單辭ノ第五ノ轉ジノげ。むげノげハ作用言ノ連用ヲ兼
ク「物おもひげ」「心ありげ」ノ如シ而ノ此げノ或ハ
過去辭ノて。兼用格ヲたる兼用格等ニ係ルヲアリ源氏葵
壺董卷ニ「はめらははげたる」榮花故ニ連用格ヲモ兼タル
ニ似タリト雖モ未ダ一般ノ例トハ看做ス可ラズ

形状變格

形状ノ變格ハ單復共ニ其轉ズル數ノ足ラザル者ト轉

ズル所ノ格ニ小異接續スベキ格ノ接辭ニテ或アル者
トヲ云フ而ノ表ニ掲グル速字微字ノ三此轉ジト為ス
ニ非ズ接辭ニ収タル如字可字ノ類都テ去々等ニ活
用シテ單復二辭ノ正數ニ足ラザル者蓋字ノ如キトス
スル類活用ハ皆此變格中ノ辭トス

初學日本文典卷之上終

初學日本文典卷之下

豐後

物集高見 著
根本真苗 校

接 辞

接辞ハ事物ヲ接續シ及ビ文脉ヲ上下ニ通ズル媒介ニ用
フル短辞ヲ云フ乃チ「親友と訪ふ」「學問を為す」「旅に
て。故郷の人に逢ふ」「故郷の人と旅の空の月を觀る」ノ
如シ而シテ接辞ニ實體言ヲ兼ル者アリ虚體言ヲ兼ル者ア
リ假體言ヲ兼ル者アリ代名言ヲ兼ル者アリ作用言ヲ兼
ル者アリ形状言ヲ兼ル者アリ又接辞ト接辞ト連續スル
者アリ實體言ヲ兼ル者ハ「人の」「月を。」虚體言ヲ兼ル

者ハ「夢に」「心は」假體言ヲ兼ル者ハ「思ひを」「樂み
 に」代名言ヲ兼ル者ハ「我が」「汝は」作用言ヲ兼ル者
 ハ「問ふに」「學ぶは」形状言ヲ兼ル者ハ「近きに」「震
 走きは」接辞ト接辞ト連續スル者ハ「をは」「もぞ」ノ
 如シ此接辞ハ其用法ノ差異ニ隨テ之ヲ左ノ各種ニ區別
 ス

○接辞ノ種類

- | | | | |
|-----|-----|-----|------|
| 第一 | 嘆辞 | 第十一 | 反辞 |
| 第二 | 希求辞 | 第十二 | 兩辞 |
| 第三 | 命令辞 | 第十三 | 分量辞 |
| 第十四 | 禁止辞 | 第十四 | 想像辞 |
| 第十五 | 指示辞 | 第十五 | 決定辞 |
| 第十六 | 現在辞 | 第十六 | 比准辞 |
| 第十七 | 過去辞 | 第十七 | 助辞 |
| 第十八 | 將來辞 | 第十八 | 句頭接辞 |
| 第十九 | 否不辭 | 第十九 | 一種接辞 |
| 第二十 | 疑辞 | 第二十 | 崇敬辞 |

接辞ニモ亦格アリ將然。連用。假體。截斷。連體。已然。ト云フ全
 ク作用言ノ格ト其義ヲ同ス然レ氏接辞ハ固ヨリ體用ニ
 語ノ媒介ニ用フルノ三ニテ獨立スベキ辞類ニ非ザルヲ

以テ體用ヲ兼接セシ上ヨリ觀ルニ非ザレバ其格ノ如何ハ之ヲ明知スルニ由ナシ故ニ先ヅ各種ノ體言及ビ用言ヲ兼ル表ヲ舉ゲ逐次ニ其下ニ連續スル格ト用法トヲ詳悉スベシ

體言ヲ兼ル接辭

此表中ニ掲出スル接辭ハ實體言ノ「ひと」虚體言ノ「こころ」假體言ノ「あそび」「たのまさ」代名言ノ「われ」ト云フ辭ヲ以テ例ヲ古書ニ徴シ一々ニ推シ試ミシ者ニ係ル而メ體言ハ實體言ノ外ハ大率其辭ニ因テ連續スル者ト否ラザル者

トアリ譬ヘバ數辭及ビ聲音等ハ同ジ虚體言ナレ
 僅ニ一個ノ接辭ノミニ係リテ數辭ハひと分
 量辭ノつよニ係リ聲ト音トハひとよと他辭ニ
 連續セズ又「われ」「なれ」ト「あ」「な」トハ同
 ジ代名言ナレバ「われ」「なれ」ヲ兼テ「わ」「な」
 ヲ兼ザル者アリ指示辭「われ」「なれ」ハ兼レ
 ク可レラレルレ如シハ兼此類の如キハ一辭一辭ニ就テ
 其例ヲ舉ル能ハズ然レバ體言ヲ兼ル接辭ハ此表
 ニ載スル者ノ外ニ在ルコトナケレバ其兼ルト兼
 ザルトハ其辭ニ就テ推シ試ミバ自ラ明瞭ナル可

いき	ぬ	ぬれ	てま	たり	たれ	つる	將來辭	なむ	なほ	疑辭	かも連	やも連	反辭	智連	や連	定連	兩辭	つ	さへ
いま	ぬ子	てき	たら	たる	つ	つれ	な	なの	なまま	か連	や連	か連	か連	か連	か連	か連	も	だに	えら
まき	疑辭	やも断	反辭	やも断	決定辭	べい	種接辭	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か
まき	や断	や断	や断	や断	べら	べみ	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か
など	反辭	や断	や断	や断	兩辭	なべ	さへ	のみ	ばかり	此准辭	ご	ご	ご	ご	ご	ご	ご	ご	ご
いかい	か断	か断	か断	か断	も	たに	せら	まで	ごと	ごと	ごと	ごと	ごと	ごと	ごと	ごと	ごと	ごと	ごと

形状言ヲ兼ル接辞

此表中ニ掲出スル接辞ハ單辭ノ「やま志」複辭
 ノ「こひ志」ト云フ辭ヲ以テ例ヲ古書ニ徴シ一
 ヲニ推シ試ミシ者ニ係ル

連用ヲ兼ル接辞	截断ヲ兼ル接辞	連體ヲ兼ル接辞
禁止辭 指示辭 現在辭	嘆辭 な や断	嘆辭 かな 指示辭
な連 は なむ なも	や も	か かも
ぞ腫 なも	や断 やも断	か かも
なと	疑辭	は
て	なむ	は
なむ	なと	は
なむ	なと	は

疑辭	や用連	反辭	かは用連	やは用連	両辭	さへ	分量辭													
か用連	やも用連	か用連	や用連		も	をり	のみ													
かも用連		かも用連	やも用連		だに															
反辭	やは断載	両辭	種接辭																	
や断載		と	かま																	
やも断載		とも																		
と	ちも	現在辭	なる	疑辭	や用連	なご	反辭	かは断載	やは用連	両辭	だに	分量辭	まて	此准辭	ごとき	助辭	ら	種接辭		
こそ	なり	なれ	か断載	やも用連	か断載	や用連	も	さへ	ほと	さへ	ほと	ごとき	ごとき	ごとき	ごとき	ごとき	ごとき	ごとき	ごとき	ごとき
なむ	なり	かも断載	かも断載	やも断載	かも断載	やも断載	なべ	をり	のみ	をり	のみ	ごとき	ごとき	ごとき	ごとき	ごとき	ごとき	ごとき	ごとき	ごとき

體言用言ヲ兼ル接辭ハ表ニ載ル如シト雖モ尚其兼ル辭ニ因テ少差アル者及ビ接辭ノ接辭ト連續スベキ者ノ如キハ其接辭ノ條下ニ論ズ

嘆辭

嘆辭ハ心意ノ感動即チ慷慨惻怛ヲ呼ブ辭トス「ああ樂志」「あな何^{オホ}怜^レ」「嬉^{ウレシ}きかも」「悲^{ウレシ}きかな」ノあああなかもかなノ如シ而ノ此辭ニ上ヲ兼テ下ニ接グ可キ格ヲ有^ウ者ト否^スラザル者トノ二類アリ其上下ニ關係ナキ者ハ尤ノ如シ

ああ

あな

あや

あは

あはれ

え

上下ニ關係ノ格ヲ有ツ嘆辞ハ其數九個ニメ左ニ示ス
如シ

各種體言ト作用形状連體
截断及四段ノ命令言ヲ兼ク

や 截断
連體

よ 截断

蝶や花や
鳴けや鶯
物を思ふよ
心細さよ

此よト命令辞ノよトハ常ニ甚ダ紛ヒ易シトを去へ
トノ如シトを去へよトナリ
命令辞ニシテトナリ
ハ嘆辞ナリ

如ク同辞同格ニ并ニテ二種ニ分ル者ハ其兼
ル辞ノ格ノ異ナルニ因ル乃チ命令辞ハ將然ヲ兼ケ

嘆辞ハ命令ヲ示ス辞尾ヲ兼ル者トス
詞本逸史ノ詔

聞食倍與止宜者ニテアル與モ命令ヲ示ス
辞尾ヲ兼タル者ニテ即チ嘆辞ノよナリス

實體虚體代名ト作用
形状ノ截断トヲ兼ク

も 截断

實體虚體代名ト四段
ノ命令言トヲ兼ク

と 截断

作用形状ノ截断ト四段
ノ命令言トヲ兼ク

な 截断

限り知らむ
妹待つ我を
船渡せと
船出悲志な
我は知らむな

作用形状ノ
截断ヲ兼ク
カ
截断

我^レは待^レむ^ル。
我^レはさぶ^レま^ル。

此^レハ上古ノ言辞ニテ中古以降ニハ殆ド用^レヒザル
如^シ而^{シテ}ノ也。行^クノ江^ニ通^ゼシ者アリ。江^ニ萬^葉集^ニ待^テた^ル母^ノ
又萬葉集ニ「父母江^ニトアルヲ觀^レレバ實體言ヲモ
兼ルニ似タリ。江^ニ萬^葉集^ニ行^クノ江^ニ母^ノ祝^ヒテ待^テた^ル母^ノ
行^クノ上^ニ舉^{タル}阿^ノレバ^ニ上^ニ異^{ナル}ナリ。

各種ノ體言ト作用形状ノ連體トヲ兼ク
カ
截断

長^ク閑^カにもあ^ルか。
寂^シ寥^シくもあ^ルか。
豊^カなるかな

静^カなるかな

希求辞

希求辞ハ「讀^マばや」「習^ハばや」ノばやノ如ク作用ノ活辞ニ附テ心意ノ冀望ヲ見スニ用フル辞トス

過去辞ノ末ト兩辭ノ連體トヲ兼ク
カ
截断

聞^キきにま^が。
見^テま^が。

過去辞ノ末ト兩辭ノ連體トヲ兼ク
カナ
截断

逢^フふ由^もかな
至^リりにま^がな

過去辞ノ末ト兩辭ノ連體トヲ兼ク
カモ
截断

常^にもか^もな
人^にもか^もや

作用ノ將然ヲ菜ク
「ば」截断

人に見せばや
聲を聞かばや

命令辞

命令辞ハ「勉めよ。」「教へよ。」ノよ。ノ如ク作用ノ活辞

ニ附テ他ニ使役ヲ與フル作業ヲ見スニ用フル辞トス

作用ノ將然連用ト菜
示辭ノセトヲ菜ク
「ぬ」截断

絶えなば絶えぬ。
雨な零りそぬ。

作用ノ將然ヲ菜ク
四段ノ將然ハ菜ク
「よ」截断

思出に為よ。
立出て見よ。

若菜摘まなむ

霜は置かなむ

作用ノ將然ヲ菜ク
四段ノハ連用ヲ菜ク
「こそ」截断

夢に見えこそ
人に告げこそ

こそハこそこせトモ活用シテ萬葉集ニ「散りては

かも古事記ニ「こぞト云へバ禁止辞ノな。截断ニ續

キ辞義モ亦「勿レトこせト云へバ否不辭ノぬ。及ビ

希求辞ノぬニ連續ス

禁止辞

禁止辞ハ「往くな。」「打つな。」ノな。ノ如ク他ノ作業ヲ

禁ズルニ用フル辞トス

作用の截断
な截断

花を折るな。
戯を為すな。

此截断ノな。ヲ或書ニ雅言ナラズト云ヘリ然レド古
今集 絶「我を恨むな」夫木集 踏「牛の子に草庵集」謀
等ニ載タレバ其鄙語ナラザルヲ証スベシ又此を
ハ稀ニ連體ヲ兼タル者アレド 散木集ニ「ハ落るな」
普通ノ例トハ觀ル可ラス

各種體言ト作用形派
ノ連體トヲ兼テ
な連用

人な谷めを
吹な散るを

此連用ノな。ハ禁止辞ノをト對スルハ普通ノ例ナレ

我無去とな。侘び」ノ如シ
或ハ其をヲ省ク「アリ萬葉集ニ「雲を霏霰き」

禁止辞の連用ヲ兼テ
作用ノ連用ヲ兼テ
な連體
截断

痛くな侘びを
聲を聞かせを

此をハ命令辞ノぬニ係テを。ぬ。萬葉集ニ「雪を踏みぬり」
嘆辞ノやニ係テを。や。新拾遺集ニ「神の駒よニ係テ
そよ。源氏若菜卷ニ「まもニ係テを。も。古今六帖ニ「
り。雨な零ト呼ブ「アリ

指示辞

指令辞ハ「京に。」「田舎へ。」「是れぞ。」「其れぞ。」ノにへ。

ぞ。ノ如ク其事物ヲ指示スルニ用フル辞トス

各種ノ體言ト作用形
状ニ連體ヲ兼ク

に
連體
假體

欄于に倚る
物と思ふに

實體虚體代名
ヲ兼ク

へ
連體
假體

人の許へ
東の方へ

各種體言
兼ク

の
連體
假體

秋草の花
月影の照る

此のニ「の如く」ト云フ意ノト「の者」ト云フ意

ノト「と」ニ通フ「ノト」ガニ通フ「ノトアリ」の

如く「ノ意ノハ古今集ニ「逝く水の早くぞ」ノ如ク

「早ク」松の葉の何時とも分かぬ「何時トモ分カク

意ノ「の者」ノ意ノハ千載集ニ「世の常のとや」

ト世ノ常ノ者佛足石歌ニ「常のも在れど」在レドモ

意「と」ニ通フ「ノハ貫之集ニ「春の共に去別るれ

は」春レト共ニ別古今集ニ「秋霧の共に立出て」

立霧ト共意「ガニ通フ」ノハ古今集ニ「水の上に

浮べる舟の君ならは」水ノ上ニ浮ベル舟金葉集ニ

「待つ人の大空渡る月ならは」月ナツ人ガ大空渡ル

ノ如シ総テ用言ニ連続スルのハ皆ガニ通フ者トス

古今集ニ「志賀の山越よて女の多意ナ逢リ又此のハ

古今集

三

嘆辞ノヤニ係テのヤト云ヘルアリ見萬葉集ニ堀川

の百首ニ錦類

實體虚體代名ト作用形状ト連體トヲ兼ク

が 連假體

我が立濡れ去るが樂ま

各種體言及ト作用形状連體ト作用ノ已然トヲ兼ク

ぞ 連用

雪ぞ零るなる風ぞ吹くなる

各種體言ト作用形状ト連體トヲ兼ク

ぞ 截断

益荒武夫ぞ夜は真夜中ぞ

截断ノぞハ假體ニ用フルアリ古今集ニ何ぞは

善けく風雅集ニ人にはさどのなからまゑかは

ノ如シ

各種體言ト作用形状ト連體トヲ兼ク

と 連假體

朧月を觀る山路を行く

各種體言ト作用形状ト連體トヲ兼ク

は 連假體

旅は憂ま露は深ま

此はハ嘆辞ノヤニ係テはヤ古事記ニ吾孀はよニ

係テはよ神武紀はよ妹はよ妹もニ係テはも古事記ニ問

の古今集ニ雪ト呼ブアリ然ニ嘆辞ノヤニ係ルは

やニ紛ヒ易キ者アリ乃チ疑辞ノヤニ係レル其レナ

リ萬葉集ニ我は年はや經然レバ疑辞ノヤハ連用ニテ

嘆辞ノヤハ截断ナレバ其格ヲ推サバ自ラ明瞭ナラ

ン

各種體言及ニ作用形状ノ連體ト作用ノ已然トヲ兼ク

こそ 連體 假體

我こそ教ふれ
汝こそ習へ

此こそハ假體ノ格ヲ有ツヲ以テ疑辞ノヤニ係テ

そヤト云フアリぬ拾遺集ニ「我こそヤ見其ヤハ連

用ノ格ヲ有テルヤナリ

各種體言ト作用形状ノ連體トヲ兼ク

なむ 連體 假體

花なむ開きける
是れなむ花なる

各種體言ト作用形状ノ連體トヲ兼ク

なむ 連體 假體

神になむ在りける

神をなむ祭るなる

此なむなむハ共ニ上ノ也。連ニ通ヒテ其用法全クぞ。

ニ異ナル一無シ

現在辞

現在辞ハ「往きて観る」「來て聽く」「思ふなる」「馴る

るなり」「ノてなるなりノ如ク方今ノ時ヲ見シ又「然

なり」「斯くなる」「ノ如ク否不辭ニ對シテ事物ノ然カ

在ルヲ示スニ用フル辞トス

各種體言及ニ作用形状ノ連體ト作用ノ截断ヲ兼ク

なら 將然

此人ならむ
彼書ならむ

此ならハ現今其事物ノ然カ在ルヲ示ス辞ナルヲ以テ亦作用言ヲ兼ルキハ其活辞ニ未來ノ時ヲ見ス者トス

各種體言及ニ作用形状ノ連體ト作用ノ截斷トヲ兼ク
なり
假體
截斷

各種體言及ニ作用形状ノ連體ト作用ノ截斷トヲ兼ク
なり
假體
截斷

各種體言及ニ作用形状ノ連體ト作用ノ截斷トヲ兼ク
なり
假體
截斷

此ならなりなるなれハ「にあ」ノ約レルなノ良行

蟲の聲をなり
風の音をなり
人ぞ告ぐなる
我ぞ聞くなる

都なれば賑ふ
鄙なれど閑雅なり

ノ四段ニ活用セル辞ニテ固ヨリ主トシテ時ヲ見スベキ辞類ニハ非ザレバなりなる人如キハ自ラ方今ノ時ヲ示シならなれノ如キハ自ラ未來ト過去トヲ示ス者ハ蓋其四段ニ働クヲ以テ作用ノ活辞ト同ジ時ヲ見ス者ナリ或説ニ此辞ハ「音をなり」ト聲をな断ヲモ兼ルヲ見レバ「ノに實ニ此説ノ如クハハ截斷

作用形状ノ連體ト兼ク
て
假體
てぬ
てぬ
てぬ

明けて出づ
暮れで歸る

てハ連用ノ格ヲ有ツヲ以テ指示辞ノハニ係テてハ

萬葉集ニ植ニ敷冬ト云フヲてばニ混ズルアリ
 玉辭の
 を宿に植ニはシ
 然ノ格ヲ有ツニ非ザレバハ係ラザルヲ種接一
 ニテ將然てばト云フ連續ノ辭アルハ此てニ非ズシ
 テテ格然てあらノ約レルニてあヲたニ約メシ者ニテ更
 例ハ形ニ同ジ者ナリ故ニ其てばノ下句ニハ必ず將
 來辭アリテ應ズル例ナリ古今集ニ梅が香を袖に
 と記念なら玉ま紫式部日記ニ「ただなら」と
 ばかり叩く水鶏ゆゑあけてばいかに悔まから玉ま
 是ヲ以テてはトてばトノ差別ハ其將來辭ノ應ズル
 ト否ラザルトニ因テモ亦明瞭ナリ古今集ノ「無きハ

てば非ザル故ニ下句ニ若シ此古今集ノ歌トアリ
 テ將來辭ノ應ズルナリハ必ズカ苦ま此古今集ノ歌トアリ
 ナラマシカトバ下句ニハ必ズカ苦ま此古今集ノ歌トアリ
 約レルてハ特リハニ係ルノミナラズ種々ノ將然ヲ
 兼ル辭ニ係ルト左ノ如シ
 てむ 貫之集ニ「見てむ」
 てめ 櫻折らバ「折りてめ」
 てな 萬葉集ニ「潮干の際」
 てま 新古今集ニ「志るを」
 又稀ニハ否不辭ノぬニ係ルアリ
 後撰集ニ「斯く花の常磐もあり世を

見るべ

此類ノて。ヲ若シ「てあら」ノ約ナラズトセバ一々古書ニ徴シテ其辞ヲ説キ試ミヨ自ラ理會スル所アルナル可シ

作用連用ヲ
兼ク
と連用

戀を繁みと。
其所も飽にと。

此と。ハて。ノ轉音ニテ其兼ル作用ノ活辞ニてト同ク現在ノ時ヲ見ス者一ス

過去辞

過去辞ハ「讀みき」
「習ひけり」
「讀みにき」
「習ひに

リノきけりにきにけりノ如ク作用ノ活辞ニ附テ其業作ニ過去ノ時ヲ見スニ用フル辞トス

作用連用ヲ兼ク
け將然

旅のけ長さ

此けハ來經ノ約ニテ來經ハ古事記ニ「あら萬葉集」君が往きけ長くなりぬノけナリ即チ年月ノ經過ヲ云フ辞ナリ

作用連用ヲ兼ク
け將然

所折けらむや
過にけらむや

此けらハ次ノけりけるけれト同ク來經ノ約レルけ

ノ良行ノ四段ニ係リテ働ケル辞ナレバ已ニ其事物
 ノ來經アラシク云フ辞トス故ニ「過」にけらむや
 ノ如キモ想像過去ヲ見ス者ナリヤ「ハ」ト「不」けらむ
 其例ヲ見ズ故ニ「反」辞ノ「や」ニ「バ」ト「過」に兼
 ナルナリト

作用ノ連用ヲ兼ク

けり 截断

春は立ちけり
花は開きけり

此けりハ來經ノ約レルけ。ノ良行ノ四段ニ係リテ働
 ケル辞ニテ作用言ヲ兼レバ其活辞ニ過去ノ時ヲ見
 ス者トス

作用ノ連用ヲ兼ク

ける 連體

老を竟てける
若かりける人

月こそ出でけれ
夜こそ明けけれ

作用ノ連用ヲ兼ク

けれ 已然

此けるけれモけりト同シ活用ノ辞ニテ作用言ヲ兼
 レバ其活辞ニ過去ノ時ヲ見ス者トス
 或説ニ此けらけりけるけれハ來有るれノ約レル
 者ナリト云ヘリ若シ然ラバ「來有」ト續タル辞
 モアルベキヲ上古ハ更ナリ中古ノ書ニ於テモ所
 見ナキノミナラズ果ノ此説ノ如クナラバリニ係

ケズシテ直ニケ。ヨリ他辞ニ係ケテ「け。長志」ト
 云フモ尚其けハ來有ノ約レル者ナリト為スカ「長け」ト
 志ノけヲ來有ノき_あノ約_りト為サバ「きあ長え」ト
 トモ言ザル可ラズ然ル時ハ亦其辞義ハ如何ト為
 カス決シテ為ス「能ザルベキヲ以テ其説ノ非ナル
 ヲ知ル可シ

作用ノ連用
 兼ク
 けむ
 截斷
 連體

讀_ヨみ初_ハめけむ
 習_ハひ始_ハめけむ

作用ノ連用
 兼ク
 けめ
 已然

花_ハこそ開_キきけめ
 月_ハこそ出_イでけめ
 語_ハりけまく

思_ハひけまく

作用ノ連用
 兼ク
 けま
 假體
 截斷

通_ハひけま志
 思_ハひけま志

此けむけめけまくけま志モ上ノ來經ノ約レルけノ
 將來辞ノむめまくま志ト連合シテ成タル者ナリ故
 ニ其將來辞ノ接續スル為ニ此四辞ノ兼ル所ノ作用
 言ハ皆其活辞ニ想像過去時ヲ見ス者トス而ノ此け
 むけめけまくニ紛ヒ易キ者アリ即チ「安_ヤまけむ」
 惜_ハまけめ「久_クまけまく」ノけむけめけまく其レナ
 リ「安_ヤまけむ」惜_ハまけめ「久_クまけまく」ノハ形状

先

第二變形ノケノ將來辭ノむ。まくニ係リタル者ニ
テ全ク此ケむけめ等トハ其辭類ヲ異ニスル者ナリ

作用ノ連用
ヲ兼ク

（き）截断

作用ノ連用
ヲ兼ク

（志）連體

人に養れ志鳥
誰にか養れ志

作用ノ連用
ヲ兼ク

（志か）截断
已然

日こそ暮れ志か
夜こそ明け志か

此き。志。志かハ共ニ作用言ヲ兼レバ其活辭ニ過去ノ
時ヲ見ス者トス

作用ノ連用
ヲ兼ク

（に）連用

出でに志人
歸りにけり

此にハ必ズ他ノ過去辭ト連合スルヲ以テ作用言ヲ
兼レバ其活辭ニ大過去ノ時ヲ見ス者トス

作用ノ連用
ヲ兼ク

（にき）截断

思ひにき
慕ひにき

作用ノ連用
ヲ兼ク

（に志）連體

過ぎに志昔
我が過ぎ志

此にきに志ハ過去辭ノ相重リテ成レルナルニ因リ
其兼ル所ノ活辭ニ於テハ大過去ノ時ヲ見ス者トス

作用ノ連用
ヲ兼ク
ぬ 截断

作用ノ連用
ヲ兼ク
ぬ 連體

作用ノ連用
ヲ兼ク
ぬれ 已然

此ぬぬるぬれハ共ニ其兼ル作用ノ活辞ニ過去ノ時ヲ見ス者トス

作用ノ連用
ヲ兼ク
てき 截断

齡ヨシは老オぬ。
學マナブは成ナりぬ。

我ワを老オぬる
學マナブひぬる業ノト

潮シホこそ満ミちぬれ
船フネこそ出イでぬれ

思オモひ初ハジめてき
頼タノシみ初ハジめてき

我ワが思オモひて去ク
頼タノシみて去ク人ヒト

此てきて去ハ共ニ其兼ル作用ノ活辞ニ大過去ノ時ヲ見ス者トス

作用ノ連用
ヲ兼ク
たら 將然

待マツちたらむ
來キたらま去ク

此たらハ次ノたりたる等ト同ク「てあ」ノ約レルたノ良行ノ四段ニ働ケル辞ニテ其事物ノ然カ在テ有ラン「フ」云フ辞トス故ニ「待ちたらむ」來たらま去」ノ如キモ多ク想像過去ヲ示ス者ナリ

作用ノ連用
ヲ兼ク
たり
假連用
截斷

作用ノ連用
ヲ兼ク
たる
連體

作用ノ連用
ヲ兼ク
たれ
已然
命令

此たりたるたれハ共ニ「てあ」ノ約レルたノ良行
ノ四段ニ働ケル辞ニテ其兼ル作用ノ活辞ニ過去ノ
時ヲ見ス者トス而ノたれハ四段ノ第四音ニ係ルヲ
以テ又命令ヲ示ス

花開きたり
實結びたり

開きたる花
實ぞ結びたる

花こそ開きたれ
實を結びたれ

作用ノ連用
ヲ兼ク
つ
截斷

作用ノ連用
ヲ兼ク
つる
連體

作用ノ連用
ヲ兼ク
つれ
已然

此つつるつれハ共ニ其兼ル作用ノ活辞ニ過去ノ時
ヲ見ス者トス

將來辞

將來辞ハ「教まへむ」
「習はまゑ」
「むまゑ」ノ如ク作

春も過まつ
秋も暮まつ

折りつる紅葉
誰が挿まつる

我こそ聞きつれ
我こそ言ひつれ

用ノ活辞ニ附テ其業作ニ未來ノ時ヲ見スニ用フル者トス

作用ノ將然ヲ兼ク
む 連断體

友と誘はむ
人に語らむ

此むハ其兼ル所ノ作用ノ活辞ニ未來ノ時ヲ見ス者トス

作用ノ將然ヲ兼ク
め 已然

風こそ吹かめ
花こそ散らめ

此めハむノ轉音ニテ用フル云ハめキヲ轉シ又兩辞ノどむも如ニ轉ズル片其兼ル所ノ作用ノ活辞ニ未來ノ

時ヲ見ス者トス

作用ノ將然ヲ兼ク
も 截断

今は如何に為も
音のみ去泣かも

作用ノ將然ヲ兼ク
な 截断

紅兼た折らな
遊び暮らさな

此もハめト同ジクむノ轉音ニテ古言ニ用フ又なモ同ジク古言ニ於テむニ代用ス而ノ共ニ其兼ル所ノ作用ノ活辞ニ未來ノ時ヲ見ス者トス

作用ノ將然ヲ兼ク
ま 假體

聞かま欲も
言はま欲も

此ま。ハむ。め。も。ト同ジク通麻行ノ将来ヲ云フ一個ノ辞
 ニテ三ま。ナラむ。め。も。ニ同ジト云フハ特リ通音ニ因ルノ
 去。ト。ア。リ。テ。其。餘。モ。去。リ。身。の。憂。き。事。も。傳。へ。ま。ハ。ル。欲。ノ
 は。ま。し。欲。ト。去。リ。問。は。其。餘。欲。去。リ。身。の。憂。き。事。も。傳。へ。ま。ハ。ル。欲。ノ
 同。シ。働。ケ。ル。バ。ナ。テ。リ。而。シ。ノ。類。ノ。如。ク。聞。か。ま。義。全。ク。む。言。ハ。ル。欲。ノ
 状。變。格。ニ。シ。働。ケ。ル。バ。ナ。テ。リ。而。シ。ノ。類。ノ。如。ク。聞。か。ま。義。全。ク。む。言。ハ。ル。欲。ノ
 ナル者其兼ル所ノ作用ノ活辞ニ未來ノ時ヲ見ス者
 トス

作用ノ將然
 兼ク
 ま
 假體
 連體
 兼ク
 ま
 假體
 連體

荒れまくも惜ま
 見まくの欲まき
 問はま
 聞かま

此まくま。ま。上。ノ。ま。ノ。形。状。變。格。ニ。係。リ。テ。其。活。用。ヲ
 為シタル辞ニテむト同ジク其兼ル所ノ作用ノ活辞
 ニ於テハ未來ノ時ヲ見ス者トス

作用ノ將然
 兼ク
 ま
 假體
 連體

言はま
 在らま

此ま。せ。ば。モ。上。ノ。ま。ノ。作。用。變。格。ノ。為。ニ。係。リ。為。ヨ。リ。ば。
 一。種。ニ。係。レ。ル。辞。ニ。テ。係。リ。更。ハ。ハ。バ。ノ。作。用。變。格。ノ。為。ニ。
 接。辞。ニ。係。レ。ル。辞。ニ。テ。係。リ。更。ハ。ハ。バ。ノ。作。用。變。格。ノ。為。ニ。
 以。テ。言。ハ。マ。セ。バ。ハ。ハ。バ。ノ。作。用。變。格。ノ。為。ニ。
 二。聞。エ。テ。必。ズ。下。句。ニ。ハ。ハ。バ。ノ。作。用。變。格。ノ。為。ニ。
 者ト其兼ル所ノ作用ノ活辞ニ未來ノ時ヲ見ス者ト
 ス

作用連用ヲ
兼テ
ナリ
將然
ナリ

花開キ
實と結ビ
見む

此ナハ過去辞ノ如ク勸ケル辞ニテ格ナハ本ノ作用變

收メ辞中次ノなむなめ等ハ皆此ナニむめ辞將來等ノ結

合セシニ成ル故ニ常ノむめ等ヨリモ一步深ク將來

ニ進メルヲ猶過去ニ大過去アルガ如シ而ノ將來

過去トハ固ヨリ相反スト雖モ其相距ルヲ愈遠キハ

ハ却テ復タ遙ニ相通フ理アルヲ以テ今此理ヲ開合

音ト合音終ノハ其輕重固ヨリ相反テ却テ雖モ開合

シガ如過去辞ノけむト將來辞ノなむト花は開キけむ

過去辞ノけむト將來辞ノなむト花は開キけむハ髻

髻トシテ相似タルガ如シ又此ナハ否不辭ノ如デニ

係ルヲアリ左ノ如シ

なぬ後撰集ニテ道知らずやみやは志

なぬ後撰集ニテ道知らずやみやは志

なぬ後撰集ニテ道知らずやみやは志

なぬ後撰集ニテ道知らずやみやは志

なぬ後撰集ニテ道知らずやみやは志

なぬ後撰集ニテ道知らずやみやは志

なぬ後撰集ニテ道知らずやみやは志

なぬ後撰集ニテ道知らずやみやは志

なぬ後撰集ニテ道知らずやみやは志

なぬ後撰集ニテ道知らずやみやは志

なぬ後撰集ニテ道知らずやみやは志

なぬ後撰集ニテ道知らずやみやは志

ム

作用連用
兼テ
なむ
連體

去來宿りなむ
去來遊ひなむ

此なむハ上ノなニむ將來ノ添ヘル辞ニテ作用言ヲ
兼レバ其活辞ニむニ係ルヨリモ尚深キ未來ノ時ヲ
見ス者トス而ノ此なむニ紛ヒ易キ者アリ即チ命令
辞ノなむニテ「宿らなむ」「遊ばなむ」ノなむナリ
然レ氏命令辞ノハ將然ヲ兼ル格ニテ將來辞ノハ連
用ヲ兼ル格ナレバ其同辞タルヲ以テ紛フルヲ勿レ
今ナ目コを出イてなめ

明日こそ往きなめ

風吹きなまゑ
花散りなまゑ

なま
假體
或新
連體

此なめなま將來モ上ノなニめ將來或ハまゑノ添テ成
レル辞ニテ其兼ル所ノ作用ノ活辞ニ於テハ單ニめ
まゑニ係ルヨリモ尚深キ未來ノ時ヲ見ス者トス

學びなば
習ひなば

作用連用
兼テ
なば
將然

此なばハ上ノなニば一種ノ添テ成レル辞ニテ其兼
ル所ノ作用ノ活辞ニ於テハ單ニばニ係ルヨリモ尚

深キ未來ノ時ヲ見ス者トス

否不辭

否不辭ハ「見^ミぞ」「聞^キかぞ」「言^イはま」「語^カらむ」「^ノぞむ」
ノ如ク作用ノ活辭ニ附テ其業作ノ否不^{シヤラズ}ヲ見スニ用フ
ル辭トス

作用ヲ兼ク
假體用
截斷

人^トも來^コぞ
我^レも往^キぞ

此^レぞハ稀ニ嘆辭ノかもニ係ル^ルヲアレバ萬葉集ニ「風
連體ノ格ヲ有テル如シト雖モ普通ノ例トハ為ス可
ラズ又一種接辭ノばニ係テ^ハば萬葉集ニ「^ハト云

フ^フアルヲ以テ將然ノ格ヲモ有テリト觀ル者アラ
ン然レ^レばニ係ル^ルモ此^レぞニ非ズシテ「^モあら
ノ約^レル^レゼシ者ニテ其例ハ形状一ニ變形ニ同シ轉
者ナル^ルヲ現在辭ノて^テはニ係テ^ハばト云フニ同ジ
故ニ「^モあらば」ハ「^モあらむあらば」ノ意ニ萬葉集
に^レ人^トと在^ル酒^ニに^テ酒^ニ壺^ニ成^リ「^モ任^ムまむ^ハ」ハ「^モ任^ム
まど^ハあらば」ノ意^ハ萬葉集今朝^ハ鳴^キま^ヒ雁^ノ類^ニ里^ニ住^ミま^ヒま^ヒ
ま^ヒま^ヒニ歸スルナリ

作用ヲ兼ク
將然

拂^ハは^ハざ^ハら^ハむ
外^ハら^ハざ^ハら^ハむ

作用ノ將然
ヲ兼ク
連聲

作用ノ將然
ヲ兼ク
連聲

此 ざら ざり ざる ハ 「むあ」 ノ 約レルガ。ノ 良行ノ 四

段ニ 働ケル 辞ニテ 其兼ル 作用ノ 活辞ニ 於テ 業作ノ

然カ アラザルヲ 見ス者ト ス

作用ノ將然
ヲ兼ク
命令

此 ざれモ 「むあ」 ノ 約レルガ。ノ 良行ノ 四段ニ 働ケ

訪は ざりき
呼ば ざりき

讀ま ざる書
誰か 讀ざる

鶯こそ 鳴ざれ
花は 散らざれ

ル 辞ニテ 其兼ル 作用ノ 活辞ニ 於テ 業作ノ 然カ アラ

ザルヲ 見ス而ノ ざれハ 四段ノ 第四音ニ 係ルヲ 以テ

又 命令ヲ 示ス

作用ノ將然
ヲ兼ク
連聲

作用ノ將然
ヲ兼ク
連聲

作用ノ將然
ヲ兼ク
連聲

作用ノ將然
ヲ兼ク
連聲

我は 欺か ぎ
人は 誘は ぎ

誰か 知ら ぬ
剛れ ぬ 作業

花こそ 開か ぬ
色こそ 見え ぬ

曇ら ざ 零る

零らで鼻る

此ぞぬねでハ皆其兼ル作用ノ活辞ニ業作ノ然カア
ラザルヲ見ス者トス

作用ノ將然ヲ兼ク
連用

鮑アかにと
言へば得に
鮑ノカズ
言へば得
言ノ意

此にハ上ノぞノ轉音ニテ現在辞ノてノ轉音ナルと
ニ係ル片ぞヲにニ轉ジテ用フル古言ノ一格ナリ故
ニ其否不ヲ見スモ亦ぞニ同ジ

疑辞

疑辞ハ「誰れ」「如何」「人ヤ來了」「我ヤ往く」ノ如ク

疑訝ヲ示スニ用アル辞トス而シテ此辞ハ上ヲ兼ケ下ニ
接グベキ格ヲ有ツ者ト虚體言ノ如ク其活用無キ者ト
ノ二類アリ今先ツ活用無キ辞類ヲ擧グ

いか

いつ

いつら

いづれ

いく

たれ

たが

なに

上下ニ關係ノ格ヲ有ツ疑辞ハ其數十一個ニノ尤ニ示
ス如シ

實體虚體代名ト作用ノ
連用假體已然トヲ兼ク
か連用

實體虚體代名及ニ形状ノ假體
ト作用形状ノ連體トヲ兼ク
か 裁断

今^{イマ}か開^カくらむ
今^{イマ}か吹^フくらむ

零^シるは時^{トキ}雨^{アメ}か

實體虛體代名ト作用ノ
連用假體已然ト兼ク

かも 連用

實體虛體代名各形状ノ假體
ト作用形状ノ連體ト兼ク

かも 截断

照るは紅葉か
獨りかも寐む
雪かも零れる
人見けむかも
零るは花かも

か。ハ本ト一個ノ辞ナレモ兼ル辞ノ異ナルニ因リ其
格ノ連用ト截断トニ變ズルヲ以テ各別ニ之ヲ擧ゲ
かもや。やもノ如キモ皆此例ニ準テ而ノ連用ノか。ハ
嘆辞ノやニ係テか。やト云フアルハ春大君集ニ
鳥ト別カ。や見む玉葉集
假體ヲ兼タルヲ以テナリ
断截

ノか。モ假體ノ下ニ其格ヲ記サツル者ハ連用截断ノ
ナレモ各辞ノ下ニ其格ヲ記サツル者ハ連用截断ノ
二格ノ差別ヲ示ナリ
主ト為シテ示ナリ

各種ノ體言ト作用形状ノ連用
連體及作用ノ已然ト兼ク

や 連用

作用形状ノ
截断ヲ兼ク

や 截断

各種ノ體言ト作用形状ノ連用
連體及作用ノ已然ト兼ク

やも 連用

作用形状ノ
截断ヲ兼ク

やも 截断

去年とや言はむ
今年とや言はむ
見ゆや見ぬや
有りや無きや
花とや見む
雪とや見む
嬉まやも
悲まやも

此や。モ假體ヲ兼タル一かニ同ジモ連用ノヤハ裁断ヲ
ニ係ル一アリ千五百番歌合ニ谷隠れ木の葉が下
の埋れ水こほればやむ音ブルも為ぬしノ如ク然
テ裁断ノヤハりひハ掲グマシキニ似たりト雖モ却
實體代名ト作用ノ假體各
作用形状、連體ト兼ク

【なご】 假體
連用

各種體言ト作用形状ノ
裁断連體ト兼ク

【たご】 假體
連用

各種體言ト作用形状ノ
裁断連體ト兼ク

【いかに】 假體
連用

遙けきやなご
寂寥きやなご

なご 咎むらむ
なご 思ひけむ

いかに 言はむ

いかに 為まゑ

此などヲ體言ノ尾ニ附レバ複數ヲ見スモ疑辭ニ

テ明ニ其一物一事ヲ指示セザルヲ以テナリ又いかに
ハ上ノいかに指示辭ノニ添ヒタル者ナリ
反 辞

反 辞 ハ「來べき春かは」
「香やは隠るる」ノ如ク動作
ノ意ヲ其裏ニ反スニ用フ而メ此辭ハ本ト疑辭ト同辭
タリト雖モ疑辭ハ其用法ニ因テ作業ニ反動ヲ見ス
アルヲ以テ更ニ茲ニ再出シテ反辭ノ名ヲ命ズ

【か】 連用

【か】 裁断

誰か 願はぬ
誰か 願はぬ
誰か 願はぬ
誰か 願はぬ

戀をあらぬか
戀をあらぬか
戀をあらぬか
戀をあらぬか

かも 連用

かも 截断

かは 連用

かは 截断

か 連用

慕^{シタハ}むあらめか^{慕^{シタハ}}ハ意有

誰^シかも仰^ヲが奴^ヲ誰^シノモ意仰

誰^シかも願^ハは奴^ヲ誰^シノモ意願

戀^{コヒ}ざらめかも^{戀^{コヒ}}ハ意有

慕^シざらめかも^{慕^シ}ハ意有

誰^シかは仰^ガが奴^ヲ誰^シノモ意仰

誰^シかは願^ハは奴^ヲ誰^シノモ意願

戀^{コヒ}ざらめかは^{戀^{コヒ}}ハ意有

慕^シざらめかは^{慕^シ}ハ意有

思^{オモ}ひやかけ去^{思^{オモ}}ハ意懸

惜^シくやあらぬ^{惜^シ}ハ意有

花^ハと見^ミま去^{花^ハ}ハ意見

月^{ツキ}とは見^ミめや^{月^{ツキ}}ハ意見

花^ハと見^ミま去^{花^ハ}ハ意見

思^{オモ}ひやはかけ去^{思^{オモ}}ハ意懸

惜^シくやはあらぬ^{惜^シ}ハ意有

三

や 截断

やも 連用

やも 截断

やは 連用

やは 截断

月とは見ゆやは「月」ハ見
ズノ意

兩 辭

兩辭ハ「友と讀む」「友も習ふ」「行きながら語る」「語
りつゝ行く」ノともながらつゝノ如ク二人ノ作業ヲ
一辭ニ示シ或ハ二個ノ作業ヲ一辭ニ見スニ用フル辭
トス

各種ノ體言ト作用形状
ト兼ク
連用體
ト兼ク
も
假體
連用

作用ノ連用
ト兼ク
つ
連用

彼も學べり
我も學ばむ

見つゝ我來ぬ
聞つゝぞ來ぬ

此つゝハ過去辭ノつゝノ二個重リテ成レル辭ノ過去辭
活用ト為リスナリ故ニ「見つゝ來ぬ」ハ「見つゝ見つゝ
來ぬ」ノ意ナリ

各種ノ體言ト作用形状
ト兼ク
連用體
ト兼ク
と
假體
連用

樂まと思はむ
燃ると減ると

此とニ「とも」ト云フ意ノとアリ堀川院後百首ニ
「画にかくと筆も及ばず」モ画ニカクノ意蜻蛉日記
ニ「穗に出でたりとかひやまからむ」穗ニ出ヤデナ
ノカ意ト而ノ此とハ截断ヲ兼ル格ナレバ彼此相對ス
ル與字ノ意ニ用フル片ハ連體ヲ兼ク拾遺集ニ「物

と思ふか疾く明けぬるとも遅く暮るるとも引の山の後谷
 遺集ニ出づるとも明けぬるとも遅く暮るるとも引の山の後谷
 上レにレめ又稀ニハ彼此相對セザルニモ用フルモア
レ正 續日本紀ニ燃レ所レ率レ流レ止レ一般ノ例トハ為ス可
 ラズ又強ク云フ片ニ用フルレ吹レきと吹レくレ零レりと
 零レるレノ如キとハレ吹レきレ零レりレノ連用ヲ兼タル
 ニハ非ズシテ其假體ヲ兼タル者ナリ

作用、截断
 兼ク
 とも
 假體

暮クるとも往ユかむ
 明アくとも去イまぶ

此ともハ截断ヲ兼ル格ナルニ體言ヲ兼タルニ似タ
 ル者アリ源日木純玉葛卷ニ島ト豆ト樹ハ神トも嬉れまし然レ

凡其ともハトニ嘆辞ノもノ添レルニテ此雖字ノ意

ノともトハ異ナレバ同辞タルヲ以テ紛フル勿レ

作用、連體
 兼ク
 とも
 假體

風カ吹クくなべに
 聲コ聞クくなべに

各種、體言、作用、形状
 連用、連體、兼ク
 だに
 假體

曇クモりだに為スよ
 勉ツメめだに為スよ

各種、體言、作用、形状
 連用、連體、兼ク
 さへ
 假體

夜ヨさへ懃ツメはむ
 晝ヒルさへ眠ツメぶる

各種、體言、作用、形状
 連用、連體、兼ク
 たら
 假體

女子メたら勉ツメたり
 童子コたら為ス得

此辭ハ「ト」ト「マ」ノ意ニ分レテ二個ノ別アリ「ト」ハ各種ノ體言ト作用ノ連用ト兼ケ「マ」ハ單辭ノ原語ト連體ト被辭ト兼ケ

作用ノ已然ヲ兼ク
（ト）連用
假體

作用ノ已然ヲ兼ク
（ども）連用

分量辭

分量辭ハ「此れほど」「其ればかり」「如ク其事物ノ分量ヲ示スニ用フル辭トス

各種體言ト作用ノ連用
（ほど）連用
假體

女ながら強志
枝ながら折れ

呼べども答へど
見れども飽かど

呼べども答へど
見れども飽かど

見れども飽かど

身のほど

家のほど

此人のみ

此事のみ

水の沸くまで
火の燃るまで

此までハ古クハ截斷ヲモ兼タレトモ萬葉集ニ「楸採りて來まじく白球普通ノ例トハ為ス可ラズ

此辭ハ「ミ」ト「ト」ト「ロ」トノ意ニ分レテ三個ノ別アリ「ミ」ハ各種ノ體言ト作用ノ連用ト兼ケ「ト」ハ單辭ノ原語ト連體ト被辭ト兼ケ「ロ」ハ實體

虚體中「ミ」ト「ト」ノ類ノ數ノ辭尾ヲ兼ク
（つ）連用
假體

是ればかりなり
今夜ばかり往む

此つハ數ノ一ヨリ九マデノ辞尾ニ附ケ十位百位千
 位ノ尾ニ附テ呼ブニハ通音ノちニ移ス例ナリ即チ
 二たち。玉葉集ニ「はたりみそぢ。佛足石歌ニ「みそ
 二たち。源氏若菜卷ニ「今年いそぢ。後拾遺集ニ「
 四そぢ。よそぢ。堀川百首ニ「みそぢ。土佐日記ニ「
 ぢ。むそぢ。堀川百首ニ「みそぢ。土佐日記ニ「
 もぢは海にありやそぢ。土佐日記ニ「なるちやそ
 このそぢの扶桑拾葉ニ「君が經む千代もち。後拾遺
 りも。ち。あまふたもち。後拾遺集ニ「ふたもち。みつ
 もち。堀川百首ニ「みつち。源氏總角卷ニ「ち。ち

テ濁音ニ呼フト清音ニ呼フトノ別アリ十位ニ附ル
 ニハ濁音ニ呼ビ但フシハ濁音ニ呼バズト百位ニ附ルニ
 ハ清音ニ呼ビ千位ニハ又濁音ニ呼ブ例ナリ

想像辞

想像辞ハ「彼は書を讀むらゑ」「彼は字を習ふらむ」
 兩零らば來まゑ」「月出では去ぬまゑ」らゑらむまゑ
 ノ如ク作用ノ活辞ニ附テ他ノ作業ヲ想像シ或ハ想像
 スル所ノ事物ノ形状ニ因テ不切實ナル作業ヲ見スニ

用フル辞トス

作用ノ截断
ヲ兼ク
らむ
連體

神ぞ知るらむ
紅葉為ぬらむ

作用ノ截断
ヲ兼ク
らめ
已然

今こそ零るらめ
今こそ晴るらめ

作用ノ截断
ヲ兼ク
らま
連體

冬來たるらま
雪を零るらま

作用ノ截断
ヲ兼ク
めり
連體

花は開くめり
月も照るめり

作用ノ截断
ヲ兼ク
めり
連體

露ぞ置くめり
風を吹くめり

作用ノ截断
ヲ兼ク
めれ
已然

汝こそ往くめれ
彼こそ去ぬめれ

此めりめるめれヲ「みえ」ノ約レルめノ良行ノ四
 段ニ働ケル者ナリト云フ説アリ若シ此説ノ如クナ
 ラバめらトモ云フベキ辞ノアルベキヲ活語指南ニ
 ト舉タリ辞古來其辞ナキハ「みえ」ノ約ラザル明
 徴ナル可シ然レバ此めりハ將來辞ノめノ良行ノリ
 されニ係レルナラン而メ良行ノらニ係ラザル者ハ
 らハ將然ノ格ニテめモ亦將來辞タレバ二個ノ將來

辭ヲ相重スベキ理ナキニ因ルナル可シ猶此辭ハ大
 詳論ス又めれヲ自己ノ作業ニ附タルモアレ兼ニレ集ベ輔テ
一足引の山のかけはまふみのほ猶他ノ作業ノ及達
リ今日のこの峰のか花は折るめれしは
 スルニ因テ然ル者ナレバ他ヲ想像スル辞義ニ於テ
 異ナルヲ無シ

作用ノ將然
ヲ兼ク
至志 裁断

敢へ至志

作用ノ將然
ヲ兼ク
至志 連體

得至志

此二辞ハ續日本紀ノ詔詞ニ見エテニ續日本紀ノ詔詞

字岐又「散末 至志ハ將然ノ至志ノ否不辭ノ志
 之時止為豆」

ニ係レル者ニテ至志至志ハ至志ノ形状變格ニ働

ケル者ナリ至志必至然カ云ヒツ其例ヲ見ナリ而ノ次ノ

至志至志く至志ノ如キハ此辭ノ約リテ成レル者

ナリ然レド其兼ル所ノ格ノ變ルハ至志至志ハ將然ヲ

ク兼已ニ一個ノ辞ト成レル上ハ縦へ約タル辞ナル

モ其格ノ變ル可キハ自然ノ理ニテ恠ム可キニハア

ラザルナリ譬ノ義ニシテ其タニ兼ル所ノ格ヨリ清

濁ノ變如シ生

至志 裁断

為至志得至志

堪へ得^マま^去

作用/截断
マ去ク
連用

勉む^マま^去く見^ミゆ

作用/截断
マ去ク
連用

願む^マま^去く思^オふ

此三辞ハ上ノま去ま去ま去ノ約レル辞ニテま去

ま去ま去ま去ト同ク作用言ヲ兼レバ其活辞ニ皆他ノ

事物ヲ想像セル不切實ナル作用ヲ見ス者トス

決定辞

決定辞ハ「褒むべき事」と「感むべき志なり」ノ如ク

活辞ニ見ル、時ハ未來ニナリ或ハ想像ヲ呼ブニ似テ

決定ノ義ニ乏シト雖モ然レド其未來ニナリ想像ニ似

ル所ノ動作モ遂ニ然ラザルト能ハザル事理ナルハ作

業ニ先テ已ニ疾ク決定セルヲ以テ又「往くべき」聽

くべき」ノ如ク命令ヲモ示シ得ル者ナリ故ニ辞義ヲ

説キ來レバ將來辞ニモ収ム可ラズ想像辞ニモ入ル可

ラザルヲ以テ姑ク此名ヲ命ジテ一辞ニ置ク

作用/截断
マ去ク
假體

聞きぬべらなり

作用/截断
マ去ク
連用

知りぬべらなり

作用ノ截断
ベ志 截断

作用ノ截断
ベき 連體

作用ノ截断
ベみ 連用

忍ぶべく見ゆ

告げば悦ぶべ志

語らば驚くべ志

今ぞ見るべき

今ぞ聞くべき

開くべみ

散るべみ

此辞ハベト云フ原語ノ形状變格ニ働ケル者ニテトベ。

辞類ハ一皆其原語ハ未ダ見出テズ推スモ形状ニ活用スル
ナザリルべらノらハ助辞ノラニテ假體ノ格ナレバ現在

辞ニ係ルナリ又ベみハ形状ヨリ麻行四段ニ移レル

みニテ「寒み」「薄み」係ニ詳ナリ化ノノみニ同ジ

比准辞

比准辞ハ「彼は花のごと志」「此は雪のごと志」ノ如ク

此事物ヲ彼事物ニ準ル業作ヲ示スニ用フル辞トス

作用ノ形状ノ連體ヲ兼ク
ごと 假體

作用ノ形状ノ連體ヲ兼ク
ごとく 連用

春のごと長閑志

秋のごと寂寥志

珠のごとく瑩く

夢のごとく覺ゆ

月光は晝のごと志

作用ノ形状ノ連體ヲ兼ク
ごと志 截断

落葉は雨のごとき

作用形状ノ
連體ヲ兼ク
ごとき
連體

雪のごとき霜
烟のごとき霧

助辞

助辞ハ「紀の關守い」花と去見れば「ノい。去ノ如ク
其句ノ助ニ用フルノミニテ意義ナキ辞トス然レモ次
ノ句頭接辞ニ収タル發語ニ類セル者トハ異ニシテ其
上下ノ兼接ニ於ルハ全ク他ノ接辞ニ同ジ

實體虚體代名ト作用ノ
假體連用連體ヲ兼ク
い
連用
連體

家なる妹い
花待つ間

實體虚體代名ト形
狀ノ連體ト兼ク
ろ
假體
連體

夜の間ろ
悲きろ哉

實體虚體代名ト形
狀ノ連體ト兼ク
ら
假體
連體

子とら
麻草ら

此三辞ハ上古ノ語法ニ在ル者ニシテ中古以來用フ
ルヲナシ而ノ此ろハ指示辞ノなもヲ兼テなもろト
云ヘルヲアリ萬葉集ニ「思ほまほろ」

實體虚體代名ト作用ノ假體連用
連體ト形状ノ連用ト兼ク
去
連用

寒く去在れば
人を去見れば

此去ハ指示辞ノのニ係ルヲアレバ萬葉集ニ「詠は優

假體ノ格ヲモ兼タルカ然レモ未ダ一般ノ例ニハ
為ス可ラザルガ如シ

實體虚體代名ト作用ノ假體連用
連體ト形状ノ連用ト兼ク
志も連用

秋を志も待つ
解を志も見む

此志もニ紛フ者アリ即チ「忘れ志も為む」古今集
どか心「忘れ」待む志もあらむ
志も「あ」ノ志もナリ此ハ前ノ志ノ兩辞ノもニ係レル
ナレバ「忘れも為む」待むもあらむノ意ナルヲ
助辞ノ志もト觀ルハ「忘れ為む」待むあらむ
ノ義ニ落テ辞意ヲ謬ル可シ又指示辞ノこそノ意ニ

通フ「時志もあれ」節志もあれノ志もモ前ノ志
もニ同ジ

形状言ノ指示辞ノ現在
で兩辞ノトナラ兼ク
志も連用

見つゝを行む
濡れてを居む

過去辞ノ志ト助辞
ノモト兼ク
志も連用
假體

珠拾ひ志
思へり志

此くハいろらト同ジク上古ノ語法ニ在ル者ニシテ
中古以來ハ之ヲ用ヒズ而ノ「珠拾ひ志」ノ志ハ
過去辞ニテ見エテ集ニ「珠拾ひ志」チ過去ノ時ヲ見エ
ルリ故ニ「曾テ珠拾ヒ共ニ助辞ト為ラレシハ謬ナリ

「思へり去る。去るノ去ハ助辞ナリ。萬葉集ニ「吾妹
 去面影に見ゆ。去ト在リテ此去ハ即チ助辞ノ去ナリ
 故ニ去ト見テ除テモ辞意ハ聞ユナルヲ助辞玉緒ニナリ
 去クヲ助辞ト為シテ見ス辞タルヲ以テ「タリ然ル
 ハ其去ハ過去ノ時ヲ見ス辞タルヲ以テ「タリ然ル
 子ガ思へリ事ノ面影ニ見ユルト云フ意ハ落テ
 今ハ已ニ思ザル義トナレバ萬葉ノ歌ノ意トハ大ニ
 異ナルヲ味知ナレハシ味知ナレハシ味知ナレハシ味
 實體虚體
 フ美ク

① 連體

天つ。神
 國つ。社

此つハ指示辞ノのニ通フ辞ナレバ其意義ナキヲ以
 テ姑ク助辞ニ収ム
 近世ノ語格書ノ中ニ此助辞ノ「花を去見れば」

ノ去。「雪志もを零る」ノ去も「見つゝと行む」
 ノと。三辞ニ作業ヲ強ク云フ義アリト説ル者ア
 リ抑助辞トハ辞句ノ助ニ用ヒテ之ヲ除クモ其義
 ヲ失フ「無キ是レ助辞ノ通例ニシテ古書ニ載ル
 所皆然ラザルナシ故ニ「花を去見れば」「雪志も
 を零る」ノ如キ去もヲ除クモ其意義ヲ害スル
 「ナシ然ニ兩辞ノと」ノ作用ノ假體ヲ兼テ「零り
 と零る」「行きて行く」ノと。如キハ其作業ヲ強
 ク云フニ用フル辞ナルヲ以テ之ヲ除ク「能ハズ
 是レ其助辞ト助辞ニ非ザルトノ明徴ナリ

句頭接辞

句頭接辞ハ兼ル辞ナクシテ直ニ句頭ニ見ル、辞類ノ
 総稱ナリ而メ此辞ニ「ハ。往。く。」「た。忘。る。」「ノ。い。た。ノ。如
 ク發語ニ用ヒテ意義ナキ者ト「ま。な。は。ら。讀。む。」「ま。こ
 ぶ。る。寒。ま。」「ノ。ま。な。は。ら。ま。こ。ぶ。る。ノ。如ク體言ノ形ヲ成
 セル者トノ二種アリ其發語ニ用フル者ハ左ニ出スガ
 如シト雖モ體言ノ形ヲ成セル者ハ辞數頗ル夥多ナレ
 バ今其一ニヲ舉テ例ヲ示ス

體言ノ形ヲ成セル者此辭ノ格ハ連用假體
 連體ナリ然レモ各其
 辭ニ因ベテ少
 差アルベシ

み

おほみ

まなはら

まこぶる

まはら

此みおほみハ句頭ニ置テ其物或ハ其事ヲ崇敬スル
 ニ用フ舉ルハ常ニ御ノ字ヲ用フル辭ニテ次ニ而メおほ
 みハ大御ノ義ナルヲ中古以來ハ音便ニ因テ常ニお
 ほんト呼ブガ條ニ説ヘリ例ハ音便
 如シ

發語ニ用フル者

發語ニ用フル者ハ其數九個ニシテ其中ハか。た。ま。ノ
 四辭ハ多クハ古言ニ在ル者トス但シお。ノ。一。辭。ハ。中
 古ノ書ニモ或ハ用
 ルベシ事ア

い 連用

い。向。ふ

た 連用

い 行
た 忘る
た 速み

ま 連用

ま 幸く
ま 夜中

み 連用

み 雪
み 空

さ 連用

さ 夜更方
さ 夜更

か 連用

か 易志

そ 連用

か 黒き髪
そ 馴松
そ 馴

を 連用

を 田
を 簾

け 連用

け 怖る
け 怖る

一種接辞

一種接辞ハ上ニ舉ル所ノ各種ノ接辞中ニ入レ難キ辞類ニ命ゼシ名ナリ即チ「壻がぬ」「后がぬ」「田舎より

「京都から」ノガ収よりからノ類ヲ云フ

作用將然已然ト指示
辭ノモトヲ兼ク
假體

習はば成む
呼べば答ふ

此ばハ將然已然トヲ兼ル格ナルニ指シハ辭ノ實ハ清音
ノハベキ状ニ始ク舊説ニ因テ表ニ詳ナリヲモ嘆辭ノカ
ヲ兼テカハト云フハ後撰集ニ山盛りに散らるる
ら近かり古今集ニ中々唐土も夢にけりかノ下ニ然
然れト云フ辭ノアルベキヲ省ケルナリト然ニ然アレ
過ルハ辭トノ兼差タル辭ノ將生ズト例へバ散りなま志
か然らば「兼將來ル辭ノアルベキヲ省ケルナリト然ニ然アレ
辭過去

ルカヲ兼リタノ如シ尚此例ハカヲ兩辭ノどもニ係テ
かどかどもト云フニ同ジハ古今集ニ聞か終に往きの道と
春日風には濡れは去袖と問はば答へむしトアルかどか
レバ「然れ」過去省ケル者ナリト因云此ばノ否不辭ノ
ねヲ兼タルねばト云フ辭ハぬにノ意ニ聞ユルハ常
ナレト新古今集ニ「沫雪どふる」トアル未ダ曇らぬ
にばト云フ意ナリぬばトぬにト通フノミナラズばノ
已然ヲ兼タル者ト指示辭ノにノ連體ヲ兼タル者ト
ハ多クハ相通フナリ古今集ニ「五月雨てい物思ひ居
貫之集ニ「此唐夜新まはく立つ年交れば人ハ意斯く聞
貫之集ニ「此唐夜新まはく立つ年交れば人ハ意斯く聞

舊りまさりけれし。此一年な
類ナリハ

此辭ハ自於因ノ意ニ云フ二個ノ別アリ。自於ノ意ニ云フ各種ノ體言ト作用形状ノ連體トヲ兼テ自ノ連用假體格於ハ連用格ナリ。因ノ指示辭ニミテ兼テ連用格ナリ。

より 連用 假體

各種ノ體言ト作用形状ノ連體トヲ兼ク而シテ體言ヲ兼ルハ自ノ意連體ヲ兼ルハ因ノ意ナリ

から 連用 假體

各種ノ體言ト作用形状ノ連體トヲ兼ク

ゆゑ 連用 假體

實體虚體ト作用ノ截斷連體トヲ兼ク

がね 假體

人^{ヒト}も見る^{ミル}が^ガに^ニ
歸^キり來^キる^ルが^ガに^ニ
學^{マカ}びね^ネか^カま^マ
愛^{アイ}無^ムま^マか^カま^マ
心^{ココロ}有^{アル}り^リげ^ゲ
物^{モノ}思^シひ^ヒげ^ゲ
雪^{ユキ}に^ニより^{ヨリ}て^テ寒^{サムイ}ま^マ
白^{シロ}晝^{ヒル}より^{ヨリ}も^モ明^{アカ}ま^マ
田^{イナ}舎^ヤより^{ヨリ}來^キたり^リ
我^{ワガ}心^{ココロ}から^{カラ}為^ナす^ス作^サ業^{ギョウ}
習^{ナラ}ふ^フから^{カラ}に^ニ為^ナす^ス得^{トク}
子^コゆ^ユゑ^エに^ニ思^シふ^フ
是^{コト}ゆ^ユゑ^エに^ニ他^タふ^フ
語^{コトバ}り^リ継^ツぐ^グが^ガね^ネ
人^{ヒト}も^モ知^チる^ルが^ガね^ネ

實體虚體ト作用ノ截斷連體トヲ兼ク

がに 連用 假體

作用形状ノ截斷ヲ兼ク

かま 截斷

作用ノ連用ト形状ノ單辭ノ原語複辭ノ兼ク

け 假體

此^{コノ}げ^ゲハ^ハ形状^{シキョウ}單^{タン}辭^ジニ^ニ入^イレ^レタル^{タル}げ^ゲナ^ナレ^レば^バ作用^{サウヨウ}ノ^ノ連^{レン}用^{ヨウ}ヲ^ヲ
モ^モ兼^{ケン}ル^ルヲ^ヲ以^イテ^テ更^{マシ}ニ^ニ此^{コノ}辭^ジ中^{チュウ}ニ^ニ収^ウム^ムル^ル此^{コノ}作用^{サウヨウ}ハ^ハ實^{ジツ}ノ^ノ連^{レン}用^{ヨウ}ハ^ハ心^{シン}ヲ^ヲ兼^{ケン}
リ^リが^ガほ^ホシ^シ物^{モノ}思^シひ^ヒが^ガほ^ホシ^シ者^{モノ}ナ^ナル^ル等^{トウ}ヲ^ヲ以^イテ^テ或^シハ^ハ約^{ヤク}作用^{サウヨウ}ヲ^ヲ兼^{ケン}ケ^ケ通^{ツウ}音^{オン}
ニ^ニ因^{イン}リ^リげ^ゲニ^ニ轉^{テン}ゼ^ゼシ^シ者^{モノ}ナ^ナル^ル等^{トウ}ヲ^ヲ以^イテ^テ或^シハ^ハ約^{ヤク}作用^{サウヨウ}ヲ^ヲ兼^{ケン}ケ^ケ通^{ツウ}音^{オン}
ハ^ハ形^{ケイ}状^{ジョウ}ナ^ナリ^リ

崇敬辞

崇敬辞ハ「讀みたまふ」「習ひたまふ」「教へまゐらむ」
 「聞江まゐらむ」ノたまふまゐらむノ如ク作用ノ活
 辞ニ附テ其業作ニ敬意ヲ加フル辞トス而ノ他ノ業作
 ニ附ル者ト已ノ業作ニ附ル者ト自他ノ業作ニ兼涉ス
 ル者トノ三種アリ本ト此辞ハ作用ノ活辞ヨリ來テ普
 通ノ接辞トハ自ラ異ナリト雖モ其崇敬ニ用ヒントス
 ルキハ他ノ活辞ニ属スルニ非ザレバ見ル、一能ハザ
 ル辞類ニ係ルヲ以テ今此名ヲ命ジテ接辞ノ中ニ收ム

作用ノ連用
 活辞
 まふ

御坐
 まふ

立出
 まふ

此まふハ作用ノ四段言ニテ「あり」「をり」ノ義ナ
 ルヲ以テ他ノ為ス業作ニ附テ呼ブキハ其業作ヲ崇
 敬スル意ヲ見ス者トス此辞ハ「あり」「をり」ノ義
 タリト雖モ他ノ辞尾ヲ兼ルキハ「あり」「をり」ノ義
 ズ故此まふヲ重テ尾ヲ兼ルキハ「あり」「をり」ノ義
 居リト云フ作業ヲ敬シテ呼ブ義ニ變ズルハ其在リ

作用ノ連用
 活辞
 たまふ

習ひたまふ

學ひたまふ

此たまふモまふト同シク作用ノ四段言ニテ物ヲ賜
 フ義ノ「たまふ」ナルヲ以テ他ノ為ス業作ニ附テ

呼ブ片ハ其業作ヲ崇敬スル意ヲ見ス者トス此辭ヲ賜

フ義ニ用ハル種ノ崇敬辭ニ活變スルリト雖モ他ノ辭尾

仕へまつる 抱きまつる

此まつるモ作用ノ四段言ニテ物ヲ獻ル義ノ「まつ

る」ナルヲ以テ自他ノ作業ニ附テ呼ブ片ハ其作業

ヲ受ル者ニ對シテ崇敬スル意ヲ見ス者トス此辭ヲ獻

尾義ニ用ハル種ノ普通ノ崇敬辭ニ變ズルト雖モ他ノ辭

作用連用
たてまつる四段活辭

傳きたてまつる 伴ひたてまつる

此たてまつるモまつると同ジク作用ノ四段言ニテ

物ヲ獻ル義ノ「たてまつる」ナルヲ自他ノ作業ニ

附テ呼ブ片ハ其業作ヲ受ル者ニ對シテ崇敬スル意

ヲ見ス者トス此辭モ物ヲ獻ル義ニ用ハル種ノ普通

ズル一種ノ崇敬辭ニ變ズル一種ノ崇敬辭ニ變

作用連用
たてまつる四段活辭

送りまつる 迎へまつる

此まおらるハ作用ノ下二段言ニテ物ヲ進ラスル義

ノ「まおらる」ナルヲ以テ自他ノ作業ニ附テ呼ブ

片ハ其作業ヲ受ル者ニ對シテ崇敬スル意ヲ見ス者

トス 此辞タリト雖モ他ノ辞尾ヲ兼ルハ一種ノ崇敬
辞ニ變ズル
作用ノ連用
ヲ兼ク
活辭

はべる
四段
活辭

抱き 是はべる
負ひ 是はべる

此はべるハ作用ノ四段言ニテ侍候ノ義ノ侍候ノ義
在リ居リノ「はべる」ナルヲ以テ自己ノ業作ニ附
テ呼ブキハ其業作ヲ受ル者ニ對シテ崇敬スル意ヲ
見ス者トス 此辞モ侍候ノ義ニ用ルハ片ハ普通ノ活
ルノ崇敬辞ニ變ジズ
作用ノ連用
ヲ兼ク
活辭
たまふ
下段
活辭

我が思ひたまふ

我が聞きたまふ

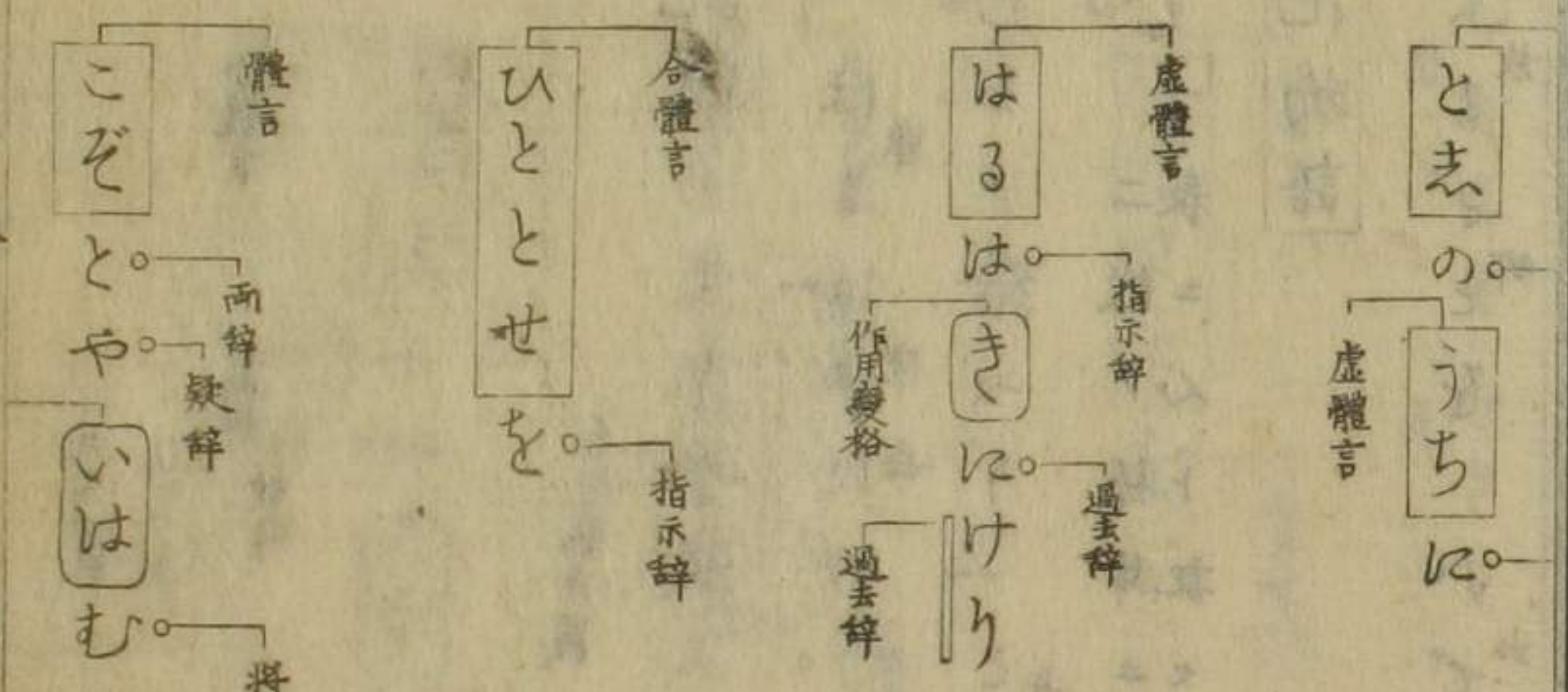
此たまふハ作用ノ下二段言ニテ自己ノ作業ニ附テ
呼ブキハ其作業ヲ受ル者ニ對シテ崇敬ノ意ヲ見ス
者トス而ノ此辞ハ「見る」「聞く」「思ふ」ノ三個ノ
動作ニ附テ呼ブ例トス

三品辞ノ格ト性質トハ上條ニ於テ已ニ論シ畢レリト雖
モ其相綴合シ相連續シテ文章ヲ成ス法ヲ熟知スルニ非
ザレバ我心意中ニ存在スル所ノ論說技術願望好欲等凡
百ノ思念ヲ記シテ之ヲ他人ニ告知スルヲ能ハズ夫レ文
章ハ今古雅俗ノ體アリト雖モ之ヲ要スルニ一ニ我思念

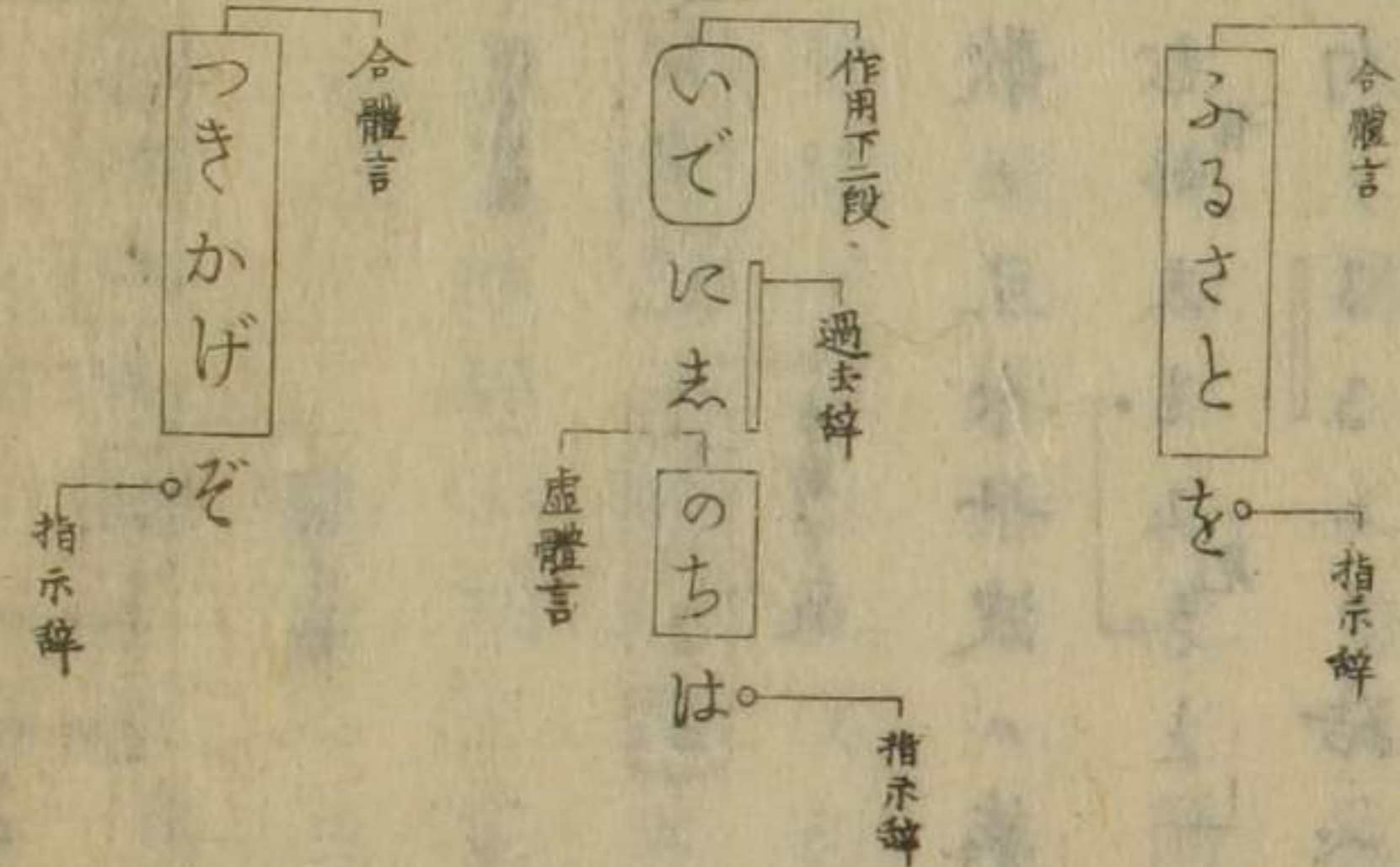
ヲ他人ニ配與スル媒介者ニ用フルニ過ザルナリ而ノ同
ク媒介ニ用フル文章ニ於テ雅文ノ俗文ニ優リ今文ノ古
文ニ及ザル者ハ蓋其辞格語法ニ明ナラズシテ意義ヲ全
達スルヲ能ハザルニ因ラザルナシ故ニ辞句綴属ノ法ノ
如キハ之ヲ大文典ニ詳悉スベシト雖モ今此篇ヲ終ルニ
際シ一二ノ古歌ヲ解剖シ試ニ先ヅ語脉ヲ示ス

古今集

とまのうちに はるはきにけり ひととせと
年 内 春 来去 言 今年 言
こととやいはむ こととまとやいはむ
去年 言 今年 言
「虚體言」 「指示辞」
のハ體言ヲ兼テ體言ニ



句ノきにハ體言ヲ兼テニ
續キハ體言ヲ兼テ用言ニ
ハハ體言ヲ兼テ用言ニ
川ト云フ連用言ニ續キ
けりハにト云フ連用言
レタ兼リ切
をハ體言ヲ兼テ下ノ句ニ
いはむト云フ作用言ニ
續ケ
トハ體言ヲ兼テヤト云
フ連用言ニ續キヤハト
ト云フ連用言ヲ兼テハ
はむト云フ作用言ヲ兼テ
五十一

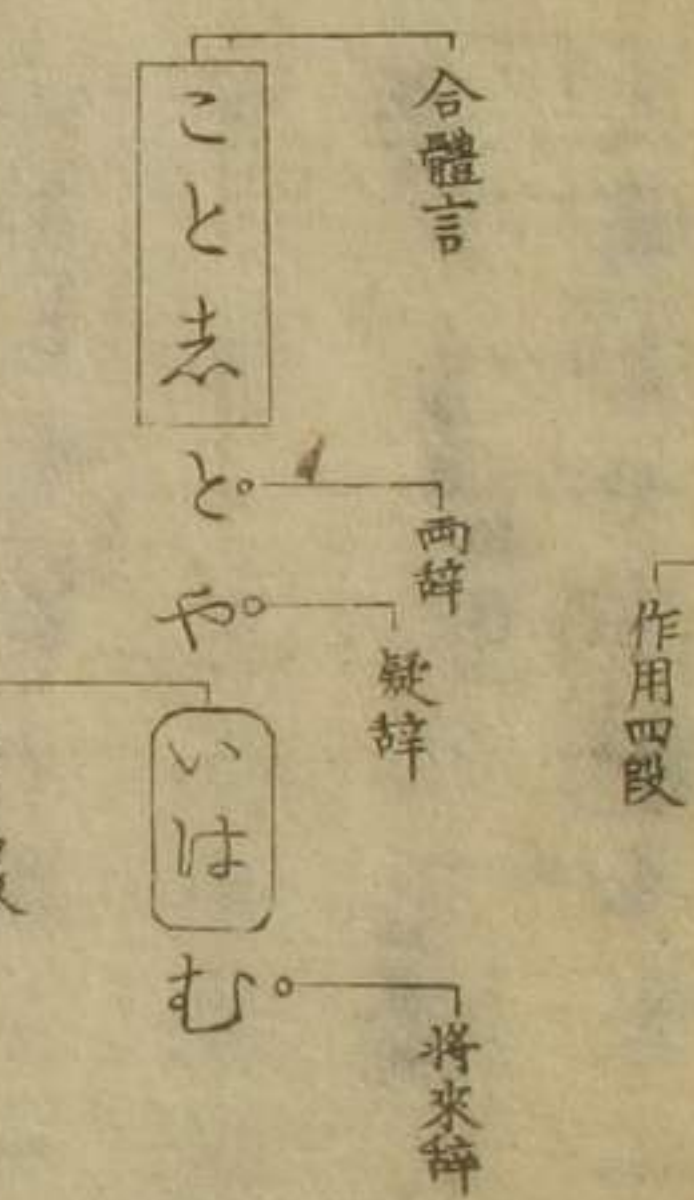


むかえもみきと
昔見
おもひやらるる
遣

をハ體言ヲ兼テ二句ノ
いにてト云フ作用言ニ續
リケ
にまハいでト云フ連用
言ヲ兼テのちト云フ體
言ニ續キハハ體言ヲ兼
テ五句ノおもひト云
フ作用言ニ續ケリ
おもハ體言ヲ兼テ五句ノ
續ケ

榮花物語

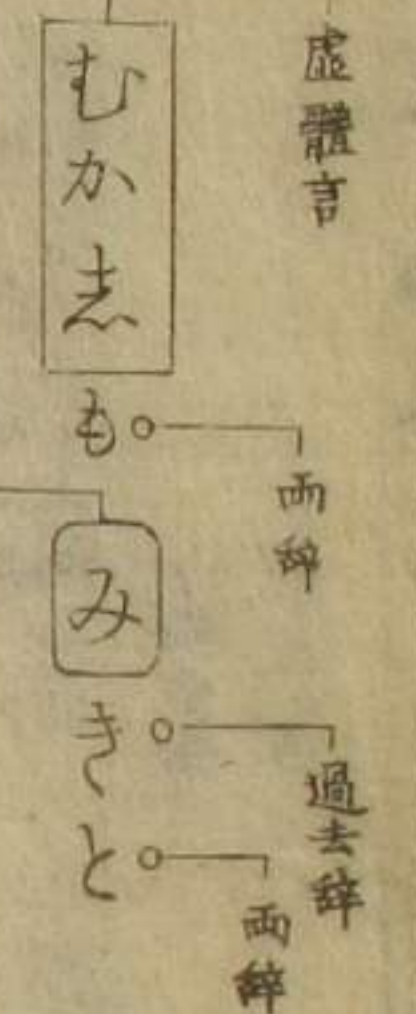
此歌ノ亙ル乎波ハ第二句ハはノ係辭ヲリ。ニテ結ビ
はるは來去にけり。係辭ノ第四五句ハやノ係辭ヲ
春ニテ結ベリ。今年とやいはむ。今とととやいは
む。表ニ段ノ係辭ニテ其結ナリハ
ふるさとをいづにまのちは
故郷といはれし
いづにまのちは
後月影



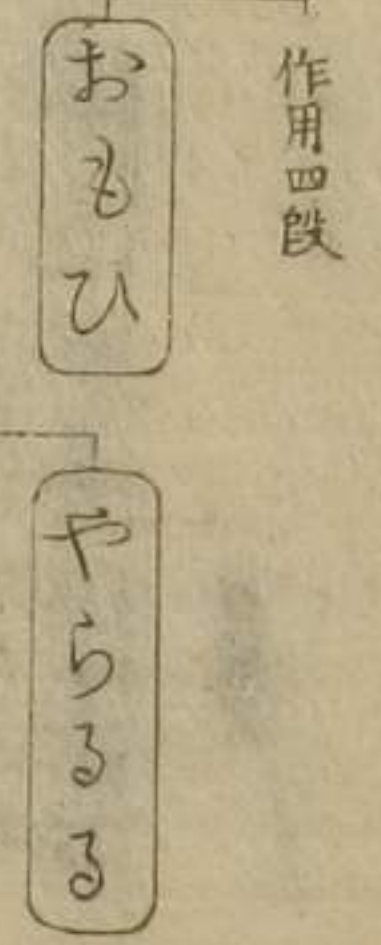
ことまどやむ
とやむノ格四句ニ同ジ
然言ヲ兼テ切レタリ
キむハいはト云フ將

然言ヲ兼テ切レタリ

和歌の調



作用上二段



もハ體言ヲ兼テみト云
フ作用言ニ續キハみ
ト云フ連用言ヲ兼テ切
レトハ五句ノおもひト
云フ兼テ五句ノおもひト
作用言ニ續ケリ

おもひハ連用ノ格ニテ
やらるるト云フ作用言
ケリ

此歌ノ互乎波ハ第四句ハもノ係辞ヲキニテ結ビ
「むかえもみきと」係一段ノ第三句ハどノ係辞ヲ第
五句ノるるニテ結ベリ「つきかげぞむかえもみき
とおもひやらるる」係二段ノ

互乎波ノ調

互乎波ノ調ハ上句ニ属タル係辞ヲ兼テ下句ニ於テ結
ブ法ナリ例ヘバ「花ぞ開くなる」月こそ照るなれノ
如クぞト云フ係辞アレバ必ズト云フ結辞ヲ用ヒこそ
ト云フ係辞アレバ必ズれト云フ結辞ヲ用フル類トス而
ノ結辞ニ用フル辞ハ接辞ノミニ非ズ作用言アリ形状言
アリ皆上ノ係辞ニ從テ其辞尾ヲ變換ス乃チ「月は出づ
」月ぞ出づ」辞出ナレハ作用ノ下二段言ニテはト云フ係
云フ係辞ニテ結バ第三ノ轉「花は美しくま」花を美
シノつるニテ結バ第三ノ轉「花は美しくま」花を美
美クまハ形状ノ復辞トニテハト云フ係辞ナレハ第三
轉ジノまハ形状ノ復辞トニテハト云フ係辞ナレハ第三

和歌の調

卷三

五三

去如シテノ如シ總テ互尔乎波ノ調ハ續クヲ切テ各其一
 個ノ事物ニ呼ビ做ス法タルヲ以テ一個ノ作業或ハ一個
 ノ形容ヲ各其一辞ニテ呼ブキハ必ズ其辞ノ截断ノ格ヲ
 用ヒザル可ラズ乃チ「作業ノ出ヅル」ヲ云ヘバ「いづ
 形容ノ美クシキ」ヲ云ヘバ「うつくま」ノ類ナリ然
 前ニハ「ハハ同シ係辞ニテモ」コレニ較レバ甚ダ輕クト
 說タルハ「ハハ同シ係辞ニテモ」コレニ較レバ甚ダ輕クト
 辞尾ノ變換ヲ待ズ「花美ク志」ト云ヒテモ同ジナリ故ニハ
 フ省テ「月出ヅル」花美ク志ト云ヒテモ同ジナリ故ニハ
 ル可シテ知然ニ「いづ」うつくま」ト書ズシテ「いづ
 ル」うつくま」ト記スルハ其格ハ連體ナレバ下句ノ
 體言ニ連續スルヲ以テ互尔乎波ヲ誤ル者トス業一個ノ作

ニテ示ス如ク下句ノ體言ニ連續スルハ「出ヅル」ハ入
 隠るニ對シタル變ズル月ノ形
 上句ニ属キテ係辞トナル所ノ接辞ハはものぞや何こそ
 ノ七辞ニテ此中ハ一格ヲ見ス者ナリ又ハ直ニ體言ヲ兼
 五辞ハ第三格ノ見スルハニ属シ或ハ第四格ヲ見スルニ属
 ス第四格ノ見スルハニ属シ或ハ第四格ヲ見スルニ属
 乎波ト云フ徒ハものぞや何こそノ八個ノ係辞ヲ結ブニ
 ハ種々ノ辞アレバ其輕重ニ因テ之ヲ三段ニ分ツ徒ハも
 ノ三辞ノ結ビテ第一段トシのぞや何ノ四辞ノ結ビテ第
 二段トシこそノ結ビテ第三段トス第一段ノ係辞徒ハ

之ヲ結ブニ截断格作用言。接辞形。辞ヲ用ヒ第二段ノ係辞その
 何ハ之ヲ結ブニ連體格作用言。接辞形。辞ヲ用ヒ第三段ノ係
 辞こそハ之ヲ結ブニ已然格作用言。接辞形。辞ヲ用フ而ノ第
 一段ハ輕ク第二段ハ重ク第三段ハ最モ重ケレバ係辞ノ
 相重ナレル者ハ其重ニ從テ結ブ然レモ係辞トナリテ見ル、所ノ接辞ハ
 相重ナレル者ハ其重ニ從テ結ブ然レモ係辞トナリテ見ル、所ノ接辞ハ
 何等ノ種類ヨリ出ヅルカヲ左ニ示ス

- 徒 はものぞや何こそノ無キ者ヲ云フ
- は 指示辞ノハニテ連用格ヲ有ツ
- も 兩辞ノもニテ連用格ヲ有ツ

の 指示辞ノのニテモ同シ云フ連用格ヲ有ツ

ぞ 指示辞ノぞニテ連用格ヲ有ツ

や 疑辞ノ連用格ヲ有ツや連用格ヲ有ツ

何 疑辞ノなにニテいかいついづれいづら

い いたれたがなぞなどいかにノ類ヲ云

こそ 指示辞ノこそニテ連用格ヲ有ツ

此八個ノ係辞ノ上句ニ在ル片ハ其結ニ用ヒタル辞ハ総
 テ切ル、ヲ以テ下句ニ連續スル能ハズ故ニ再ビ之ヲ
 連續セント欲スルニハ必ず切ル、辞ヲ兼ル所ノ接辞ヲ
 用ヒテ然リ後ニ下句ノ詞ヲ綴ル可シ左ニ舉ル所ノ例ハ

即チ切レシヲ兼タル形ナリ

月光寒ま・ ・ ・ と見れば云々

鴈は鳴きにき・ ・ ・ と語るに云々

夜も明けぬ・ ・ ・ と思ふに云々

友の來るなる・ ・ ・ と聞くに云々

空ぞ時雨るる・ ・ ・ と見る間に云々

今や晴れん・ ・ ・ と躊躇ふに云々

いかにか為まま・ ・ ・ と考ふるに云々

雪こそ零るらま・ ・ ・ と見居たる間に云々

八個ノ係辞ヲ結ブベキ辞ヲ集テ左ノ表ヲ作ル
本居翁ハ

係辞ニ因テ結ビ辞ノ轉變スルヲ二轉三轉ト稱シク然レテ像辭ノ結ビ辞ノ轉變スルヲ二轉三轉ト稱シク然レテ何辞ノカモ係辞ハ結ビ辞ノ轉變ニテ一
重ニ因テ亦從テ三段ニ分ツチ
結辭ニ因テ亦從テ三段ニ分ツチ

弓尔平波ノ表

一假二段三段ノ係辞ヲ結ブ辞ハ各其欄内ニ記ス而
ノ志きけれううれノ如ク一辞ノ轉變ニテ一段
ヨリ三段迄ノ結辞トナル者アリ或ハ然ラザル者ア
リ故ニ一辞ノ轉變ニテ三段ノ結トナル者ハ第一段
ノ上ニ於テ其辞ノ出所ヲ示シ否ラザル者ハ結辞ト
ナル段毎ニ於テ其例ヲ示ス

接辞 辞 想象	接辞 辞 過去	接辞 辞 過去	接辞 辞 現在	作用格 第三變 四段長 行再轉
めり	けり	たり	なり	り
断截 吹くめり 言ふめり 聞くめり	断截 開きけり 散りけり 入りけり 出けり	断截 明けたり 暮れたり 見たり 聞たり	断截 住まり 来たり 照るなり 住むなり	断截 有りり 習へり 居り
める	ける	たる	なる	る
體連	體連	體連	體連	體連
ふくめる ふるめる いふめる きくめる	さきける ちりける いりける いりける	あけたる くれたる みたる ききたる	ゆくまる くるまる てるまる むまる	あまる あまる あまる あまる
めれ	けれ	たれ	なれ	れ
然已	然已	然已	然已	然已
ふくめれ ふるめれ いふめれ きくめれ	さきけれ ちりけれ いりけれ いりけれ	あけたれ くれたれ みたれ ききたれ	ゆくなれ くるなれ てるなれ むなれ	あれ あれ あれ あれ

五十七

接辞 辞 否不	接辞 辞 否不	接辞 辞 過去	形状 單辭 複辭	段一第
志	む	き	志	徒はも
断截 燃は志 減は志 解は志 失は志	断截 燃はむ 減はむ 解はむ 失はむ	断截 有りき 無きき 聞きき 知りき	断截 深か志 浅さ志 樂の志 久さ志	係
				段二第
	ぬ	志	き	のぞや何
	體連	體連	體連	係
	もぬ きぬ しぬ うぬ	あり志 なかり志 ききは志 去りて志	ふかき あさき たのまき ひさまき	段三第
	ぬ	志か	けれ	こそ
	然已	然已	然已	係
	もぬ きぬ しぬ うぬ	あり志か なかり志か ききは志か 去りて志か	ふかけれ あさけれ たのまけれ ひさまけれ	

作用 活四 辞段	作用 下上 二二 段段	作用 下上 二二 段段	作用 下上 二二 段段	作用 下上 二二 段段
く	る	ゆ	む	ふ
断截	断截	断截	断截	断截
行飽開鳴 くくく	忘枯飽奮 るるる	絶消海老 ゆゆゆ	添譽恨試 むむむ	傳加忍強 ふふふ
作用 活四 辞段				
く	る	ゆ	む	ふ
體連	體連	體連	體連	體連
ゆあきな くくく	わかこふ るるる	たきくお ゆゆゆ	そほうこ むむむ	つたふま ふふふ
け	るれ	ゆれ	むれ	ふれ
然已	然已	然已	然已	然已
ゆあきな けけけ	わかこふ るるれ	たきくお ゆゆれ	そほうこ むむれ	つたふま ふふれ

五十八

接辞 辞過 去	作用 活下 辞二 段	接辞 辞過 去	作用 下上 二二 段段	作用 下上 二二 段段	作用 下上 二二 段段	作用 活下 辞二 段
ぬ	つ	を	く	う		
断截	断截	断截	断截	断截		
吹零重兼 きりぬぬ	見捨恥落 つつづ	瘦載海担 ををを	掛受來起 くくく	蹴居飢粒 ううう		
ぬ	つ	を	く	う		
體連	體連	體連	體連	體連		
ふきぬ かかぬ みはお つづつ	みはお つづつ	やのをこ ををを	かうくお くくく	くまう ううう		
ぬれ	つれ	をれ	くれ	うれ		
然已	然已	然已	然已	然已		
ふきぬ かかぬ みはお つづれ	みはお つづれ	やのをこ ををれ	かうくお くれれ	くまう うれれ		

作用 活四 辭段	接辭 將來	作用 活四 辭段	作用 活四 辭段	作用 活四 辭段
花	ん	む	ふ	つ
斷截 波残貸為 ままま	斷截 鳴往聞見 まかん	斷截 摘倦汲任 むむむ	斷截 添拂逢迫 ふふふ	斷截 滿待立打 つつつ
作用 活四 辭段	接辭 將來	作用 活四 辭段	作用 活四 辭段	作用 活四 辭段
花	ん	む	ふ	つ
體連 わのかな たこそ	體連 なゆきみ まくらん	體連 つうくを むむむ	體連 そはあお らふふ	體連 みまたう つつつ
せ	め	め	へ	て
然已 わのかな たこそ	然已 なゆきみ まくらめ	然已 つうくを めめめ	然已 そはあお へへへ	然已 みまたう ててて

此つ、三結
へ餘意を合
ナリ故ニ其
連用ニテ其
辭ニ非ズ

作用 下上四 段段	接辭 想像	接辭 將來	接辭 兩辭	接辭 希末
る	らま	まま	つ	はや
斷截 蹴見釣散 るるる	斷截 問答 まま	斷截 問答 まま	用連 聞鳴來見 つ	斷截 問答 まま
作用 下上四 段段	接辭 想像	接辭 將來	接辭 兩辭	
る	らま	まま	る	
體連 けみつち るるる	體連 かくらま まま	體連 いはまま まま	用連 二段ノ係辭中 テモハ輕ク 其結ノ三用 次モ皆此例	
れ	らま	ままが		
然已 けみつち れれれ	斷截 かくらま まま	接辭 將來 ままが		

接辞 嘆辞 希求辞	接辞 命令辞	接辞 命令辞 命令辞	接辞 嘆辞 命令辞	接辞 嘆辞 希求辞
よ	ぬ	よや	よよ	よ
断截 鳥よ 教へよ 勉めよ	断截 往きぬ 問ひぬ 負ひぬ 過ぎぬ	断截 習へよ 勉めよ	断截 習へよ 勉めよ	断截 鳥よ 教へよ 勉めよ
接辞 嘆辞	接辞 命令辞	接辞 命令辞 命令辞	接辞 嘆辞 命令辞	接辞 嘆辞 希求辞
を	ぬ	よ	よ	よ
断截	断截	断截	断截	断截
二段ノ係辞中 のノ結ビノ三ニ 用フ	二段ノ係辞中 のノ結ビノ三ニ 用フ	二段ノ係辞中 のノ結ビノ三ニ 用フ	二段ノ係辞中 のノ結ビノ三ニ 用フ	二段ノ係辞中 のノ結ビノ三ニ 用フ
接辞 指示辞 用フ	接辞 指示辞 用フ	接辞 指示辞 用フ	接辞 指示辞 用フ	接辞 指示辞 用フ
を	を	を	を	を
用連	用連	用連	用連	用連

此セテ結ノ
餘意ヲ令テ
ナリ故ニ其辭ヲ
連用ニ異ノ結
辞ニ非カ

接辞 指示辞 用フ	接辞 指示辞 用フ	接辞 指示辞 用フ	接辞 指示辞 用フ	接辞 指示辞 用フ
を	は	は	は	は
断截	断截 花はも 月はも	断截 花はも 月はも	断截 花はも 月はも	断截 花はも 月はも
二段ノ係辞中 のノ結ビノ三ニ 用フ	二段ノ係辞中 のノ結ビノ三ニ 用フ	二段ノ係辞中 のノ結ビノ三ニ 用フ	二段ノ係辞中 のノ結ビノ三ニ 用フ	二段ノ係辞中 のノ結ビノ三ニ 用フ
接辞 指示辞 用フ	接辞 指示辞 用フ	接辞 指示辞 用フ	接辞 指示辞 用フ	接辞 指示辞 用フ
を	を	を	を	を
用連	用連	用連	用連	用連

接 辞 疑 辞	接 辞 嘆 辞	接 辞 嘆 辞	接 辞 嘆 辞	接 辞 疑 辞
反 辞	反 辞	嘆 辞	嘆 辞	疑 辞
か や 断 截	か は 断 截	か や 断 截	か も 断 截	か 断 截
接 辞 疑 辞	接 辞 嘆 辞	接 辞 嘆 辞	接 辞 嘆 辞	接 辞 疑 辞
反 辞	反 辞	嘆 辞	嘆 辞	疑 辞
か や 断 截	か は 断 截	か や 断 截	か も 断 截	か 断 截
二段ノ何ト云フ 係辞中ノ か 以テ結ビ用フ	二段ノ何ト云フ 係辞中ノ か 以テ結ビ用フ	二段ノ何ト云フ 係辞中ノ か 以テ結ビ用フ	二段ノ何ト云フ 係辞中ノ か 以テ結ビ用フ	此疑辞ノハニ段中 何ト云フ係辞ヲ結 ブ辞ナリ但シ此結辞 ニハ餘意アル者トス

接 辞 希 求	接 辞 希 求	接 辞 希 求	接 辞 希 求	接 辞 希 求
希 求	希 求	希 求	希 求	希 求
か 断 截	か も 断 截	か な 断 截	か ん 断 截	か 断 截
接 辞 希 求	接 辞 希 求	接 辞 希 求	接 辞 希 求	接 辞 希 求
希 求	希 求	希 求	希 求	希 求
か 断 截	か も 断 截	か な 断 截	か ん 断 截	か 断 截
二段ノ何ト云フ 係辞中ノ か 以テ結ビ用フ	二段ノ何ト云フ 係辞中ノ か 以テ結ビ用フ	二段ノ何ト云フ 係辞中ノ か 以テ結ビ用フ	二段ノ何ト云フ 係辞中ノ か 以テ結ビ用フ	二段ノ何ト云フ 係辞中ノ か 以テ結ビ用フ

刀製文庫

接辞 疑辞 反辞	接辞 反辞	接辞 疑辞 指示辞 重七ル辞	接辞 指示辞 重七ル辞	接辞 疑辞 指示辞 重七ル辞
やも 断截	やは 断截	やぞ 断截	ぞ 断截	ぞも 断截
二段係辞中 の結ニ用ミ 用フ	二段係辞中 の結ニ用ミ 用フ	二段係辞中 の結ニ用ミ 何係辞ヲ結フ	二段係辞中 の結ニ用ミ 何係辞ヲ結フ	二段係辞中 の結ニ用ミ 又 何係辞ヲ結フ

接辞 疑辞	接辞 疑辞	接辞 疑辞 指示辞 重七ル辞	接辞 疑辞 指示辞 重七ル辞	接辞 疑辞 指示辞 重七ル辞
いか 断截	なぞ 断截	ぞよ 断截	ぞや 断截	ぞは 断截
二段係辞中 のトヤトノ結 ビニ用フ	二段係辞中 の結ニ用フ	二段係辞中 の結ニ用ミ 又 何係辞ヲ結フ	二段係辞中 の結ニ用ミ 又 何係辞ヲ結フ	二段係辞中 の結ニ用ミ 又 何係辞ヲ結フ

接辞 指示
辞 示
こそ
用連
係辞ノ
其結ミテ
省ナリ

接辞 禁止
辞 止
な
断截

接辞 指示
辞 示
こそ
用連
二段中ノノ保
辞ノ下置テ其
結辞ヲ省ケナリ

接辞 禁止
辞 止
な
断截
二段ノ保辞中
ノノ結ビノミニ
用フ

形状 單辞
複辞
さ
断截
二段中ノノ保
辞ヲ結テ見ル
ガ樂マキト月ノ
サヤケシノ類

接辞 兩辞
と
用連
二段ノ何ニ附テ
「誰ト問フ」如
ク云ハバ下ノ結
ビハ何ニ拘ラズ

接辞 兩辞
も
用連
二段ノ何ニ附テ
「幾世モ経ル」
ノヤク云ヘ下ノ
結ハ何ニ拘ラズ

接辞 指示
辞 示
に
用連
こそニ附
テ「思ハレ」
「聞き」
類ニ云フ

接辞 兩辞
とも
用連
こそニ附
テ「嘆ク」
「嘆ク」
類ニ云フ

「通はし」知
なく」等ノ
ぬふヲ伸タル

接辞 希求
辞 求
こそ
断截

接辞 將來
辞 來
な
断截

接辞 過去
辞 去
ぬ
断截
二段ノ中何ノ
結辞ニ用フル
變格ナリ

「通はし」知
なく」等ノぬ
ふヲ伸タル

接辞 希求
辞 求
こそ
断截
二段ノ保辞ノ
中ノノ結ビノミニ
用フ

接辞 將來
辞 來
な
断截
二段ノ保辞中
ノノ結ビノミニ
用フ

接辞 兩辞
と
用連
こそニ附
テ「見レ」
「聞ケ」
類ニ云フ

接辞 一種 かえ 断截 一段ノ係 用フ	接辞 一種 かに 断截	接辞 一種 かぬ 断截
	接辞 一種 かに 断截	接辞 一種 かぬ 断截
		接辞 一種 かに 断截 二段ノ係 中ノ結ビ 用フ

初學日本文典卷之下終

版權免許

明治十一年二月廿六日
全 年七月出版

著者 大分縣士族 物集高見

出版人 東京府平民 出雲寺萬次郎

發賣 片山武兵衛

第一大區十四小區
富澤町二十七番地

第一大區十三小區
横山町二丁目一番地

第二大區一小区
三年町二番地

